

特集：
PSIMとは？その全貌を探る

市場動向：
文化遺産の防犯と保全

特別企画 SECURITY SHOW 2011
注目のセキュリティ機器



EverFocus®

**HD監視システム供給企業
エヴァーフォーカス**

録画ソフトウェアの メインストリーム。

防犯・監視カメラを
もつと便利に、
もつと使いやすく。



KxViewPro

Ver2.0 新発売!
H.264 に対応しました。

- ・マルチベンダ対応で複数メーカーのネットワークカメラ混在可能
- ・デュアルモニター対応で再生画面、ライブ分割画面を同時表示可能
- ・MAP画面よりカメラ呼び出し、ライブ画面表示
- ・再生画面モーション解析で見たい場面のみを再生
- ・ライブマルチ画面で複数拠点の管理も容易
- ・9台用、16台用、32台用、64台用 (NEW) をラインナップ
最大640台のカメラを登録可能



株式会社ネットカムシステムズ
E-mail: netcam@ncam.net
http://www.kxview.net

■本社・秋葉原ショールーム
東京都千代田区外神田3-10-3
プライム秋葉原ビル7F
TEL 03-5207-8591

■大阪支店
大阪府大阪市中央区道修町1-3-3
戎道修町ビル4F
TEL 06-6232-3832

■新発売!!

顔認証システム『顔みわけ〜る』

- ・ネットワークカメラと最新の顔認証技術を組み合わせ、認証した人物とデータベース上のブラックリストやVIPリストを高速で照合しポップアップ表示
- ・顧客管理、入退室管理にも活用可能

「車両ナンバープレート認識エンジン」

- ・基本エンジンを独自の認識アルゴリズムで一から設計、高性能、低価格を実現
- ・自社開発なので誤認識調整やご当地ナンバー等「地名」の変更・追加も迅速に対応可能
- ・車両ナンバープレート認識エンジンを利用することであらゆるシステム構築が可能

各種ソフトウェア、画像解析システムのカスタマイズお受けします!

HD-SDI メガピクセルカメラ

遅延の無いリアルタイム映像

非圧縮HD映像を同軸ケーブルで伝送します。



非圧縮メガピクセル映像!!



ネットワーク監視ソリューション!!

**豊富なラインナップ
VGA から 2メガピクセルまで
ボックス型からドーム・PTZタイプ**



Intelligent IR Camera

CNB からインテリジェント IR (アンチサーチレーション技術) カメラ新登場

インテリジェント IR 機能搭載! 高解像度デイトカメラ

インテリジェント IR 技術とは?



最新インテリジェント IR 機能搭載全天候型デイトカメラ
CNB テクノロジー社から新機能搭載商品ぞくぞく登場予定
インテリジェント IR 機能は Monalisa DSP のみの機能です。



CMS



各種スマートフォンに対応!!!
さらに進化する H.264 デジタルレコーダー
ネットワーク機能と長時間高画質録画



4chタイプ:HDF1212DV/H



8chタイプ:HDE2424DV



16chタイプ:HDS4848DV

スマートフォンの機種によりインターネットを環境を通して DVR に接続できない又はご覧いただけない場合がございます。DVR においては F/W アップグレードが必要な場合がございます。



CNB Technology Inc. 日本総販売代理店
株式会社店舗プランニングセキュリティ事業部
〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2-21-4 幡ヶ谷ファーストビルディング2階
TEL.03-3378-4901 FAX.03-3378-4906
仙台営業所 名古屋営業所 大阪営業所 福岡営業所 技術センター
<http://www.tenpo.co.jp> 製造元 CNB Technology Inc.

第19回 セキュリティ・安全管理総合展

SECURITY SHOW 2011

SECURITY SHOW 2011 に出展いたします



表紙特集 COVER STORY

4 HD監視システム供給企業 エヴァーフォーカス

特集 SPECIAL FEATURE

12 PSIMとは？ その全貌を探る

18 脅威への対応をさらにスマートに

24 PSIMへの誤った風評

市場動向 VERTICAL MARKET

26 文化遺産の防犯と保全

32 従来の電子セキュリティを検証する

特別企画 SPECIAL EDITION

35 SECURITY SHOW 2011

生体認証 BIOMETRICS IDENTIFICATION

46 マルチモーダル生体認証

イベントリポート SHOW REVIEW

48 IUK、世界トップシェア
監視カメラソリューションセミナーを開催

49 ボッシュ、新製品を続々と発表

展示会情報 SHOW CALENDAR

50 展示会、プライベートショー日程

注目製品解説 JUST LAUNCH

56 ソニー、HDカメラのラインナップを充実化

新製品情報 PRODUCT INFO

58 CCTV、入退管理、その他

8 国内産業ニュース

10 海外産業ニュース

63 読者の声





商店街から通学路、駐車場まで即設置・即録画運用可能

一体型街頭防犯デジタルカメラシステム GDR-24AS



クライアントPC ※1

■ AC100Vの電源だけで簡単設置可能

カメラ&レコーダーの一体構造で配線の手間が軽減し工事が簡単になります。

■ 高い拡張・運用性能 ※2

GDRシリーズはシステムへの接続に無線LANネットワークを利用することで、カメラとレコーダーの管理・運用性を大幅に向上しています。ネットワークを活用することでGDR単体の利用に限らずカメラを含めた大規模なシステム ※3の一部としてもGDRは利用可能です。

■ 確実な録画性能

録画装置 ※4に半導体記録メディアを採用し、温度、振動、衝撃に対して一般的なHDDより高い信頼性を実現、更に24時間～1ヶ月間の連続録画に対応します。

■ 高い環境性能

防水防塵性能を強化し、実用性を重視した設計で「保護等級IP66に準拠」しました。また、ヒーター&ファンなども内蔵し日本全国の設置に対応します。



※1 クライアントPCは別途ご用意ください。
※2 インターネットへの接続環境は必須ではありません。
※3 大規模システム用 CMS は別途ご相談ください。
※4 GDRシリーズは専用のSSDを採用

お客様との絆を大切に、安心と安全を守り続けます。

株式会社 ケービデバイス TEL.075-354-3372 (代表)
http://www.kbdevice.com/

■ 本社 京都市下京区高辻通柳馬場西入泉正寺町465-2 たかくらビル



営業所一覧：本社営業部、札幌、仙台、宇都宮、東京、名古屋、大阪、広島、福岡、鹿児島



品質システム規格
本社・札幌・宇都宮・東京・名古屋・大阪・広島・福岡 総証



20000822(02)
ISO9001:2008



低迷の時代の中で、EverFocus Electronics社は その自社ブランドの価値と、信頼のおける ソリューションを通して、邁進していきます

2010年度の財務データに基づき、全世界のセキュリティ会社TOP50の中で、EverFocus Electronics社は、第23位にランキングされました。また、近年の全世界 景気後退の環境下でも、業界のリーダーの地位を確保しております。15年前の会社設立以来、Everfocus社は自社ブランドを提供する事で、その品質を保持してきたメーカーです。

国際的な戦略、地域別の経営体制、地域別のサービス体制

Everfocusの子会社は、米国、日本、中国、インド、ドイツ、およびイギリスにあります。地域別の経営体制とは、各地域ごとに、財源の配分、技術サポートや改良、財務管理、マーケティングの計画、在庫管理、物流管理



エヴァーフォーカスジャパン(株)
総公司ブランド事業中心 處長
日本子会社 副社長

陳徳仁 Andy Chen

を独自に実施する事を意味していません。台湾本社は、戦略的な商品の開発だけではなく、最前線である各地域別の目標設定と、実行戦略も、全体としてサポートしております。

研究開発する勇氣

研究開発の投資は、全体予算の約30%を占めております。100人以上のハード・ソフトの開発者と技術者(その多くが博士号をもっています)が世界中にいます。中機能から高機能に開発を絞り、同業のサムソン社やパナソニック社と競合しています。

商品の品質保証は絶対です。 我々は、長年の経験から、品質 では他社にひけをとらないと

断言する事ができます。それは、世界共通の保証期間(カメラに関しては5年・DVRに関しては3年の保障期間)が、示しております。また、台湾では、その大部分である中機能から高機能の製品の生産を行っております。

2010年、EverFocus社のIPカメラ製品は、完全なラインナップになりました。ONVIF、PSIAに対応する2メガピクセルのカメラや、NVRや管理ソフトは、中東やアフリカなどの市場に対して提供していきます。我々は、2~3年以内に、IPカメラ製品における大半のシェアを取るつもりで、その準備を進めております。

HDCCTVの先駆者として、EverFocus社は、今月より他社に先駆けて、高機

能のHDCCTV DVRを販売開始します。この商品は、アナログDVRに取って代わる為、イギリスや日本などのアナログDVRが優位な市場では、多くの顧客が、アナログDVRを誤って選択しています。

全速力

EverFocus社は、その商品とソリューションを推進する為、これまでと違った市場に販売経路を広げていきます。北アメリカ、東欧などで、代理店を通して製品とソリューションを販売します。西欧、中東、およびアフリカでは、アナログとIPを統合して、製品とソリューションを提供します。ラテンアメリカと東南アジアでは、代理店とSIメーカーを通じて、製品とソリューションを販売します。

市場から算出される会社の成長率は、2011年には、20%以上を見込んでおります。あらゆる事を解決する提供者として、EverFocus社は、市内監視、通信/輸送、コンサルティングをそれぞれ統合・改良するビルディングオートメーションシステムを育成する計画を進めております。

Everfocus Japan販売戦略 「ブランド戦略」

1. エヴァーフォーカスジャパン(株)の歴史

エヴァーフォーカスは、1995年創立の台湾に本社を置く防犯機器メーカーです。その日本法人として、エヴァー

フォーカスジャパン(株)は、2002年4年より活動を開始しました。活動開始当初、エヴァーフォーカスというブランドの認知度が低く、我々は、大変苦勞をしました。その後、ODM(相手先のブランドをつける商品を開発・製造を行う)によって実績を伸ばし、同時に、ブランド品の販売も伸びてきた頃、機器の品質不良を起こしてしまいました。そして、我々は、

- エヴァーフォーカスジャパン(株)という「日本法人の存在意義」という観点から、ODMではなく、「オリジナリティのあるブランド品」を国内に販売していく。
- 日本市場では、品質管理が非常に厳しく、他の競合国産メーカーと同等の品質管理体制にしないと受け入れてもらえない。という結論に至りました。日本市場において、海外カメラメーカーが実績をあげるには、かなり難しく、これまで非常に良い経験になりました。我々は、日本で成功するには独自のマーケティング、販売戦略が必要であると痛感し、今後、それを実行していきます。

2.エヴァーフォーカスジャパン(株)の今後の販売戦略

- 「オリジナリティのあるブランド品」を日本国内にて販売していく日本では、2011年7月より一般家庭のテレビが地上デジタル放送に切り替わります。デジタル画面に慣れた一般顧客が、監視カメラ市場でも映像のHD化を当然のように要望してくると考えられています。その様な環境化で、我々は、二つの選択肢でユーザーの要望に答えていく事ができます。

一つ目のソリューションは、「フルHD対応・nevio HDシリーズ IPカメラ」になります。まず、EAN3200はボックス型のフルHDカメラで、フルHDで30FPSの解像度を表示する事が可能で

す。H.264とMPEGの2種類の圧縮形式に対応しており、ノイズリダクション機能を搭載したモデルとなっております。

さらに、ドーム型のフルHDカメラとして、EDN3200があります。こちらは、防水や耐衝撃性に特化したカメラで、IP66・バンドル・PoEへの対応が可能となっております。

二つ目のソリューションとして、TCP/IP等のネットワークを使用しないHD映像ソリューション「HDCCTV」があります。これは、既存のBNCケーブルを利用して、フルHD映像を録画・転送する事ができる防犯ソリューションで、既設のアナログカメラの配線設備(同軸ケーブル等)・施工方法が踏襲できる特徴を持っています。映像伝送時の遅延がほとんどない為、違和感のないライブ映像を確認する事が可能です。

HDCCTVカメラでは、EHQ5200ボックス型カメラは、2メガピクセル・CMOSセンサー搭載、フルハイビジョン(約207万画素)になっており、720pの解像度にも対応しております。その他のカメラとして、屋内用赤外線機能搭載ドーム型カメラ EDH5240も販売する予定です。

HDCCTVレコーダーは、アナログカメラとHDCCTVカメラを同時に接続できるハイブリッドタイプを来月リリース致します。レジや金庫など金銭取扱場所や、マンションのエントランス等高解像度での撮影を必要とする箇所のみをHDCCTVカメラでハイビジョン化を行い(同軸ケーブルはそのまま使用)、他のカメラは既存のアナログカメラをそのまま使用するという使い方が可能です。このハイブリッドタイプを使用すれば、既存のアナログレコーダーをそのまま入れ替え、一部分の画像のみを高画質にするといったアップグレードが可能となります。

エヴァーフォーカスジャパン(株)が提供するHD化ソリューションは2つあり、世界でも、フルHD IPカメラとHDCCTV両方を取り揃えるカメラメーカーはありません。我々は、この二つのソリューションを日本市場に対して、「オリジナリティのあるブランド品」として、今後提供していきます。

- 品質管理を徹底していく

本市場において品質管理は絶対です。我々は、管理体制を見直し、日本国内でも徹底した検査を実施し、不良品・故障品に対する早期対応を目指しております。昨年、新たに千葉県船橋市に商品センターを開設し、台湾本社の出荷検査に対して

フィードバックができる様、台湾からの全品受入検査を行っております。また、国内の出荷に対しては、全数出荷前検査を実施し、納品時のトラブルを未然に防止しております。

日本のその様な取り組みは、エヴァーフォーカスの会社方針の中のLocalized Serviceにあたり、顧客がこれまでの海外製品にあった「安価=品質悪」というイメージを一新しております。エヴァーフォーカスジャパン(株)は、今後もこのような独自の販売管理体制を継続していきます。

3.エヴァーフォーカスジャパン(株)のめざす所

エヴァーフォーカスジャパン(株)は、他の海外カメラメーカーとは違う路線で、エヴァーフォーカスブランドの育成・認知度の向上を目指しており、そのブランドを通じて、顧客満足の向上に役立てる事を常に考えております。

日本ではカメラメーカー間の競争激化、及び存続の淘汰が始まっておりますが、我々は、自社ブランドでこの厳しい時代を生き抜く自信をもっております。



EverFocus®

ネットワークを使用しないもう1つのHD監視ソリューション： 従来の同軸ケーブルを利用した HD画質の伝送と記録

HDCCTVとは？

TCP/IP等のネットワークを使用せず、従来の同軸ケーブルを使用してフルハイビジョン映像を転送する防犯ソリューションです。カメラ側・レコーダ側ともにHD-SDI端子を搭載、これまで使用していた同軸ケーブルを活用できます。

ネットワークカメラでは、設定を複数の装置(ネットワークカメラ本体・ルータ・NVR)で行う等の必要があります。また、設置時にネットワークの知識が必要となります。HDCCTVでは従来のアナログカメラ同様に同軸ケーブル・電源ケーブルの接続のみで、設置は完了です。HDCCTVはこれまでの施工方法を踏襲できます。

アナログCCTVとおなじ感覚で

設置方法同様にレコーダ・カメラの設定も、従来のアナログCCTV同様に行うことができます。ParagonHDレコーダのメニュー画面・設定項目は弊社のレコーダのものを踏襲。これまでと同じ感覚でHD防犯ソリューションの構築・設置・設定が行えます。

また、ネットワーク通信に関する設定をカメラ側で行う必要はありません。ネットワーク経由で遠隔モニタリング・制御をする場合も、これまで同様に、レコーダ側のネットワーク設定を行うだけです。

HDCCTVカメラ・EQH5200

EQH5200はHDCCTV対応ボックス型カメラです。2メガピクセル・CMOSセンサー搭載、フルハイビジョンのほか720pの解像度にも対応。設置が容易に行えるよう、HD-SDI端子のほかにテストモニター用RCA端子を搭載しました。RCA端子はアナログ出力ですので、これまでご利用いただいたテストモニターをそのままご利用いただけます。

HDCCTVレコーダ・ParagonHD

ParagonHDは8台のHDCCTVカメラを接続できるレコーダです。解像度1080iでは各カメラ最大15fps、720pでは最大30fpsでの録画が可能です。メニュー画面・レイアウトは弊社ECOR264シリーズと共通。マウス操作で直感的に操作できるメニュー画面を採用しています。本体内にウェブサーバ機能を搭載、モニタリングのほか、各種設定・再生・録画データコピーを行うことができます。操作は原則マウスのみで行い、ログアウトはブラウザを閉じるだけです。

遠隔制御はブラウザInternet Explorerからのネットワーク接続でOK。専用ソフトのインストールは不要です。また、アクセス時には必ずユーザー名・パスワード入力が必要。レコーダに一定の制限をかけることが可能です。

スマートフォン・MACOS等、

Internet Explorerを搭載しない端末・PCからもライブ映像をモニタリングできます。

オプション機器

HDCCTVシリーズではカメラ・レコーダのほか、オプション機器も用意しております。HD-SDIをHDMI端子に変換するコンバータ、HD-SDIリピータ、HD-SDI端子を光ファイバケーブルに変換するコンバータと、アナログCCTVにはないユニークなオプション機器があります。

HDCCTVの今後

ボックス型カメラのほか、屋内向け赤外線照射機能搭載ドーム型・EDH5240、屋外向けドーム型・EHH5200・屋外設置対応の電動ズーム内蔵カメラを発売予定です。

レコーダではアナログカメラとHDCCTVカメラを同時に接続できるハイブリッドタイプを開発中。レジや金庫等高解像度での撮影を必要とする箇所のみをハイビジョン化(同軸ケーブルはそのまま使用)、他のカメラは既存のものを利用といった使い方も可能です。



Paragon HD DVR

EQH5200

トータルセキュリティシステム



EPTZ3650
(outdoor)

EZ650

EQ610

EHD525EX

ECOR264X1 DVR

アナログカメラの製造からスタートしたエヴァーフォーカス。「品質・競争力・革新」をスローガンに、お客様のニーズに応えることを経営理念の中核に、トータルセキュリティシステムとしての各種製品を作り続けてきました。現在、アナログカメラ/レコーダのほか、ネットワークカメラ、HDCCTVと幅広いラインナップを取り揃えられるようになりました。レコーダは高圧縮かつ高効率のH.264を採用。屋外・屋内向け、ドーム型、ボックス型、赤外線対応モデル、PTZと様々なシーンで活躍できるカメラも充実。お客様に最適なセキュリティシステムをご提供できます。



■ EMW330

耐衝撃赤外線カメラ、IP67、設置場所(側面/背面/壁/天井)

NEW



■ EMV200

2チャンネル超小型SDカードモバイルDVR

NEW



■ EMV1200

12チャンネル、H.264対応、コンパクトモバイルDVR



■ EMD300

コンパクト、耐候&耐衝撃、モバイル/固定、昼夜対応ミニドームカメラ

secutech

APRIL 20 - 22, 2011
Taipei, Taiwan
Booth **M708-M716**

secutech

THAILAND
JUNE 30 - JULY 2, 2011
Booth **D19**

第19回セキュリティ・安全管理総合展

SECURITY SHOW

March 8 - 11, 2011 Tokyo, Japan

**Booth
SS3233**

www.everfocus.co.jp • info@everfocus.co.jp

EverFocus Subsidiaries

Taiwan • United States • United Kingdom • Germany • China • Japan • India

大日本印刷、ICカード即時発行用カードプリンタを開発

大日本印刷は、銀行などの金融機関が店頭でICキャッシュカードを発行し、その場で顧客に渡すことができるICキャッシュカード即時発行システムの機能を拡張した新タイプを開発し販売開始した。

今回開発した新システムは、目隠しシール貼付とインクリボンの文字消去機能を追加することにより安全性を高め、両面プリントにより裏面をインターネットバンキングカードとした一体型ICキャッシュカードの即時発行を可能とした。その他の主な特長として、キャッシュカード表面の磁気テープを隠したデザインにも印字が可能なこと、ICキャッシュカードに用いられる高耐久性基材への印字も可能なこと、カード両面にオーバーコート(保護膜)を施すため、印字面の耐久性が向上するなどがある。

パナソニック システムネットワークス、パナソニックSSインフラシステムを発足

パナソニック システムネットワークスは、法人・官公庁向けシステム市場の事業基盤の強化とグローバル成長を図るため、システムソリューション事業の中核を担う会社として、事業部門であるインフラシステムビジネスユニットと同社100%出資の連結子会社パナソニックSSインフラシステムと、パナソニックSNグラフィックスを統合し、新生「パナソニックSSインフラシステム株式会社」として4月1日付で発足させる。

パナソニックSSインフラシステム株式会社の事業は、ワイヤレスソリューションで地域の防災・防犯に貢献する「無線システム」、高度な制御・センシング技術でスムーズな道路交通の最適化を図る「ITS」、画像処理技術を活用して社会の安心・安全な環境づくりのお役に立つ「高度映像監視・画像処理システム」、新聞市場で培った高品質な画像処理技術・製版技術をさらに幅広い分野に展開する「グラフィックス」、放送設備やダム管理システム、水処理・道路電気設備などの様々な社会基盤の長期にわたる運用を提供する「社会インフラシステム」の分野となる。

レオパレス21とセコム、単身者住戸にセキュリティ・システムを導入

セコムは、レオパレス21と業務提携を行い、レオパレス21が提供する一人暮らし向けのアパート・マンションに、セコムが販売している小規模集合住宅向けの「セコムAS」を導入する。各住戸に不正侵入を検知するセンサをはじめ、火災

産業技術総合研究所、暗視カラー撮像技術を開発

総合研究所が開発した技術は、暗闇における被写体に赤外線照射し、被写体に反射された赤外線を独自の高感度赤外線撮像技術および高速画像処理技術により検出し、可視光下での被写体の色と同一または近似した色によるカラー動画像として、リアルタイムで撮像、表示あるいは録画することのできるこれまでにない新しいタイプの撮像技術である。

今回開発した赤外線暗視カラー撮像技術による画像は、従来のモノクロ、モノカラー、疑似カラーの画像と比較して情報量ははるかに多い。例えば、防犯カメラで撮像、記録された画像から、犯人の帽子やカバン、着衣の色などが特定できれば、犯罪検挙率の向上にもつながると期待される。また、画像のカラー化によって視認性が向上するため、モニター監視者の疲労・負担を軽減できることも考えられる。

NECとノベル、生体認証領域で協業

NECは、指紋認証ユニット「PU900-10」と認証精度世界第1位を獲得した指紋認証アルゴリズムを搭載する指紋認証ソフトウェア「指紋認証ユーティリティADクライアントV9」をセット化した「Secure Finger」を「Novell Secure Login」に連携することを可能にした「Secure Finger for Novell Secure Login」を2月24日から発売開始した。

また同社は、非接触で指紋認証と指静脈認証を同時に行なう装置「非接触型指ハイブリッドスキャナHS100-10」(以下「HS100-10」)も同時発売。世界最高水準の独自認証アルゴリズムで確実な個人認証を行う。「HS100-10」は、「Novell Secure Login」との連携機能を実装する。

ノベル社の「Novell Secure Login」は、セキュアなシングルサインオン環境に、NECの指紋・指静脈認証製品と連携させることでセキュリティと利便性をより一層向上できる。今回、NECの「Secure Finger for Novell Secure Login」および「HS100-10」との同時購入に限り、「Novell Secure Login」を特別価格で提供する。

センサ、非常通報ボタンを設置。センサが異常を検知した場合は、異常信号をセコムのコントロールセンタに自動的に送る。コントロールセンタの管制員の指示に基づき、セコムの緊急対応員が現場に駆けつける。

(HD) カラーカメラモジュール FCB-EH4300



FCB-EH4300は、フルHDビデオフォーマット（1080p/30）対応、20倍オートフォーカス・ズーム・レンズ搭載の高感度小型カラーカメラモジュールです。200万画素CMOSイメージセンサ"Exmor"を採用し、様々な機能を搭載した多機能カメラです。

【主な特長】

- 1/3型CMOSセンサの採用により、フルHD対応の高精細／高画質の映像を提供。
- プログレッシブで読み出し、新開発の画像信号プロセッサによるダイナミックレンジの広い映像が得られるワイドダイナミックレンジ機能を搭載。さらにこのワイドダイナミックレンジ機能を自動切り換えができることで、被写体の暗い部分から明るい部分まで最適な映像を実現。
- 光学倍率20倍でF1.6の高倍率の明るいズームレンズを搭載し、光学+デジタルで240倍を実現。
- ノイズリダクション機能を搭載し、低照度でノイズの少ない映像を実現。
- 映像信号は、デジタルとアナログY/Pb/Prの出力を有します。デジタルでは、レジスタ設定により、1080P/29.97、1080P/25P、1080i/59.94（フレームアウト：29.97PsF）、1080i/50（フレームアウト：25PsF）、720P/60、720P/50、720P/30、720P/25の多彩な出力が選択可能。

- IR（赤外線）カットフィルタを機械的に非装着にできます。さらにその自動切り換えができることで、高輝度から低照度の被写体まで最適な映像を再現。
- VISCAによるコンピュータ制御が可能。
- カメラの状態を6種類まで記憶可能。
- 最大24ブロックまでのプライバシーゾーン・マスキング機能が使用可能。
- モーション・ディテクション機能を搭載。
- 画面でのタイトル表示は1行20文字、11行まで設定可能。
- AE応答速度が可変。

【主要仕様】

- 高精細ハイビジョン（HD）カラーカメラ
- 200万画素CMOSイメージセンサ"Exmor"搭載
- 光学20倍オートフォーカス・ズーム・レンズ（f=4.7mm～94.0mm、F1.6～F3.5）を搭載
- デジタルズーム機能（12倍）
- 50.0（W）×60.0（H）×87.9（D）mmとコンパクトなサイズ
- 質量約260gと軽量化
- Auto ICR機能搭載

- プライバシーゾーン・マスキング機能
- ワイドダイナミックレンジ機能
- モーション・ディテクション機能
- カラー・エンハンスメント機能
- スローAEレスポンス機能（最長5分以上）
- 温度読み出しモード
- 内部同期
- VISCA protocol（CMOS 5Vレベル）インタフェース
- ポジションプリセット機能
- カスタムプリセット機能
- ビデオフォーマット
HD：1080p/29.97, 1080p/25, 1080i/59.94 frame out
29.97PsF, 1080i/50 frame out 25PsF
720 p/59.94, 720 p/50, 720 p/29.97, 720 p/25
SD：NTSC/PAL（640×360）
- 映像出力
HD：Analog・Component（Y/Pb/Pr）
Digital・Y/Cb/Cr 4:2:2（LVDS）
SD：VBS 1.0Vp-p（同期負）
- オートICR機能
- 最低被写体照度（Typical, F1.6, 50 IRE 1/4秒）：0.26 lx（ICR-OFF）, 0.01 lx（ICR-ON）

ソニー株式会社

コンシューマー・プロフェッショナル&デバイスグループ プロフェッショナル・ソリューション事業本部
ビジュアルセキュリティ・ソリューション事業部 企画マーケティング部 ISマーケティング課
神奈川県厚木市4-14-1 〒243-0014 Tel.046-202-8594 Fax.046-202-6780
<http://www.sony.jp/ISP/>

アクシス社、好決算を発表

アクシスコミュニケーションズABIは、2010年度の決算結果を下記の通り発表した。

- 純売上高：29億3300万スウェーデンクローナ(前年比127%)
- 営業利益：4億1500万スウェーデンクローナ(同135%)
- 税引前利益：4億1300万スウェーデンクローナ(同135%)
- 税引後利益：3億500万スウェーデンクローナ(同138%)
- 1株当たり利益：4.32スウェーデンクローナ(同138%)
- 1株当たり配当金：取締役会では、特別配当3スウェーデンクローナを含む、4.5スウェーデンクローナの配当を提案。(同116%)

本発表に対して、同社レイ モーリソンCEO は次のように発表した。「2010年度の純売上高として、29億3300万スウェーデンクローナを記録した。当社製品に対するあらゆる市場からの継続的かつ高い需要、豊富な在庫状況および高可用性が、この結果に貢献した。第4四半期の成長率は40%にも達し、市場の伸びよりも大きかったと評価している。当社はネットワークカメラ市場をリードするサプライヤーとして、その地位を強化してきた。当社製品とソリューションは、主にセキュリティ監視と遠隔監視に焦点を絞り、革新的でオープンな技術プラットフォームを基盤としている。小売業、市街地監視、交通機関などでの監視機器導入では、世界中から関心が寄せられている。また、当社はネットワークカメラに関する約20の特許を取得し、特許ポートフォリオを強化した。当社は、世界20カ国以上に拠点を設け、70カ国以上の販売パートナーと協力関係を築いている。今後も世界市場での拡大を続けていく」。

インテグレイテッド・セキュリティ・システムズ社、B&B ARMRを買収

インテグレイテッド・セキュリティ・システムズ社は、B&B ARMRの全資産の買収を実質的に終え、同社の付属的な部分を含めて全体を所有し、運営権を握った。この買収は、テキサスのストレート・エイン・投資グループへの合併という形で行われた。また、株主による協議で事前に承認された資産売買契約に基づいて行われた。

この買収は、B&B ARMRの受け取り可能な買掛金、在庫、固定資産、知的財産、およびB&B ARMRのジョイントベンチャー、B&B Roadwayへの投資などのすべての付属物を含めたもの。総買収金額は6百万ドルで、その金額は、現金、45万ドルの約束手形、そして、45万ドルの買収側の親会社の優先株式で構成している。

中国セキュリティ市場、地元のシステム構築企業が市場を独占

IMSリサーチ「中国のセキュリティ・システム・インテグレーション：2011年版」によると、中国市場は、海外セキュリティ機器ブランドが大きなシェアを占めているにもかかわらず、システム構築市場は、中国地元企業が独占している。

そして、この状況は、今後数年間は変化しないと予測している。

また、15のシステム構築サービスプロバイダのうち、海外企業はわずか1社のみ。海外のシステム・インテグレータにとって、大きな問題になっているのは、商業や製造業などの限られた市場にしか、ビジネスチャンスがないということだ。海外企業にとって、今後5年間に最大の成長が見込まれる鉄道や公共機関などの政府の投資によるプロジェクトを受注することは、非常に困難な見通し。

また、レポートでは、中国のシステム構築市場は、2014年に、1,300億ドル以上になると予想している。しかし、海外のインテグレータは、がっかりする必要はない。上級リサーチアナリストのブー・ツァング氏は、海外のシステム・インテグレータの共通性について「海外企業は、通常、ハイエンドの商業ビルや製造設備に注力している。また、海外企業は、中国に事業を拡張したいグローバルな企業を顧客にしている。これらのプロジェクトについては、地元のシステム・インテグレータは、受注することはできない。さらに、いくつかの海外システム・インテグレータは、地元資本によるプロジェクトにおいて、地元のシステム・インテグレータと協力することもできる」と述べている。

コロンビアの飲料メーカー、ベリント社IP監視システムを導入

ベリント・システムズ社は、コロンビアにあるサブミラー社の子会社バベリア社が、コロンビア国内の流通、瓶詰工程、会社設備のために、マルチポート・エンコーダとベリントVMSおよびベリント映像情報化ソリューションの映像分析システムとネットワークカメラを導入したことを発表した。同ソリューションにより、バベリア社は、セキュリティ・システム、損失防止システム、品質管理機能などを活用することができる。

サブミラー社は、世界最大の醸造メーカーの1社で、6大陸の75カ国で、200以上の飲料ブランドを提供している。バベリア社は、サブミラー社のコロンビア工場として機能し、コロンビアの主要な飲料製造複合企業である。

欧州のセキュリティITストレージ市場、ビデオデータの急増により拡大

フロスト&サリバンの欧州セキュリティに関するレポートによると、監視カメラの激増により、最近、ストレージの需要が増大している。このことは、IT業界の企業が、セキュリティ業界にストレージのノウハウを転用し、活用していることから明らかだとしている。

先進のITストレージのメリットが十分に知られておらず、また、比較的高価であることもあって、ITストレージは、現在のところ、広く普及していない。しかし、質的にも量的にも、映像データが増大していることから、ネットワーク・ストレージの導入が進み、仮想化ストレージやクラウド・ストレージといった技術のもたらすメリットが拡大すると見ている。

ストレージ業界は、高いランニングコスト、セキュリティ面の懸念、技術的な複雑さなどの課題を抱え、これが市場成長に限界をもたらしている。

抱えている課題

●最先端のITストレージ・システムの複雑さ

NASやSANなどの先進のネットワーク・ストレージ・システムは、複数のセキュリティ・サブシステムと統合された場合、導入や保守に関して専門技術が必要になる。

●複雑なデータ管理手続き

効果的なストレージ管理は、最新のRAIDディスク、事故によるデータ損失を避けるための自動的なバックアップ、定期的なアップグレードなどが必要になるため、それ自体が複雑であり、時間がかかる。さらに、高度に専門的な知識も必要。

●エンドユーザーの高い期待

性能向上とハードディスクの価格低下が厳しい競争を強いている。

●電力と冷却コストを抑制する必要

データセンターのエネルギーコストの約40%は、ストレージ・システムの維持にかけられており、運用コストの増大につながっている。

●ビデオデータの激増

高解像度ビデオ監視システムの導入と、サブシステムなどとの統合により、膨大な量の画像が産み出されている。

●セキュリティデータの保全

ネットワーク技術の登場とともに、先進の暗号化技術やアクセスコントロール技術の導入によって損なわれることがないように、繊細なセキュリティ関連のデータの保全が、より重要になっている。

最近の技術トレンドには、クラウド・ストレージ、半導体ストレージ、仮想化ストレージ、グリーン・ストレージなどがある。

EMC、ヒューレット・パカード、IBM、日立データシステムズなどの少数の企業は、明らかにストレージ市場のリーダーである。購買決定に影響を与える、主な競争的な要素は、拡張性、リソースの可用性、柔軟性、ROI（総保有コスト）、ユニット当たりのストレージコスト、ソリューション全体の価格、ブランドの評判、そして、導入/保守の容易さなどである。

APACの監視カメラ出荷台数、2013年までに2,100万台に到達

インスタット社のレポートによると、APAC（アジア・太平洋地域）は、比較的低価格の監視カメラと監視システム的设计・製造を継続する地域であることを目指しており、生産国群として、監視カメラの出荷を引き続きリードしていている。

また、2013年の出荷台数が、2,100万台に近づく予想している。一方、収益の方はまったく話は別だ。米国およびEMEA（ヨーロッパ・中東・アフリカ）の方が、より高い販売価格のために、APAC地域以上の大きな販売収益を産み出している。

「低価格カメラの販売台数が非常に多いため、APACの収益は他地域に比較して、低いままにとどまるだろう」と流通アナリストのマックス・バロン氏は語っている。「APACの収益は、今回の予想から何年も経ったあとで、APACが高価なカメラの高い収益性に気付いたときにはじめて、米国やEMEAのような比較的高価なカメラが販売されている他の地域の収益と同等になるだろう」。

その他のレポート内容

- ・ネットワークカメラの成長はアナログカメラを上回り、ハイブリッドDVR、NVRの成長率を押し上げている。
- ・2014年にはビデオエンコーダ、画像プロセッサ、分析プロセッサなどを含めたネットワークカメラ用のプロセッサの収益は、2010年と比較して67%成長との予測。
- ・映像監視設備市場規模は、2014年には150億ドルに達する見込み。
- ・映像監視設備は、病院や家庭の患者の状態や、小売店舗の行列の長さをモニターするだけでなく、料金所、教育施設のキャンパス、公共交通機関、自動車交通量の監視、法執行機関などの幅広く、導入されていく見通し。

PSIMとは？その全貌を探る

物理的セキュリティ情報管理 (PSIM) は、セキュリティ担当者の負担を軽減する。PSIM は統合プラットフォームを実現するため、複数のシステムを別々に管理する必要がなくなる。

また、最も関連性の高い情報を提示し、最善の行動指針を提示してくれる。

担当者は、様々な個々のシステムから全体像を組み立てることができる。

例えば、火災発生時、煙探知器は炎を検知し、カメラは火事を示す映像を提供し、PSIM は操作担当者の対応策の一覧を示すことができる。統合化プラットフォームは、既存の投資を最大限に活用し、複数のシステムをシームレスな1つのインタフェースにまとめることができる。

しかし、PSIM 供給側が、それぞれ独自の方法で様々な情報を持ち込み、業界を形成しているため、真の PSIM とは何かという定義は供給側により異なる

a&s International



PSIMは今最も注目を集めている業界用語の一つである。「状況認識」「指揮統制」とも呼ばれさらに成長可能なこのソリューションは、統合という傾向が現実に発生していることを示している。

全体を管理する上でPSIMがもたらす利益は明確である。操作担当者は、あるワークステーションで入退管理を、別のワークステーションで映像を、さらに他の機器で侵入を追跡管理するのではなく、PSIMを通じて全システムを鳥瞰図として見るができる。アベルディーン・グループは、2010年3月に実施した映像監視に関する調査で、「映像解析やPSIMといった技術は、映像監視の自動化を支援し、意味のない情報を取り除き、より情報化した意思決定に必要なデータを操作担当者や監視者に提供する。一般に、こうしたデータは、IT用語では実用的なデータ、公共安全の用語では状況知識、国土安全保障の用語では総合領域認識と称する」と記載している。

これらの美辞麗句を並べた用語はすべて1つのこと、すなわち最も重要な情報に操作担当者の注意を向けさせるということの意味している。管制室スタッフは、撮影された映像を100本も見る代わりに、時間を有効に活用して早く問題を解

決することができる。アベルディーン・グループによると、「同数の常勤スタッフで比較したところ、当社の調査での最優秀者は3.3倍の台数のカメラ、監視者または操作担当者が判断し行動を起こさなければならない警報については、21倍もの警報に対応することができた」と評価している。

PSIMが操作担当者にとって代わることはないが、複数の入力情報の意味をより効率的に理解する手助けとはなる。「例えば、空港で正体不明の物体を監視する操作担当者は、同時に複数のカメラの画像を見て、対象物がそこに存在するに至った一連の時系列経路とその経路を追跡し、爆発物検知ロボットからの化学物質識別信号を監視し、危機管理ツールを使用して避難手順を評価することができる」とハネウエル・インタナショナル社基盤保護&自動制御ソリューション部門国際マーケティング部長のバスカー・ガングリイ氏は語る。

PSIM、VMS、ACS

映像管理ソフトウェア(VMS)や入退管理ソフトウェア(ACS)などの管理ソフトウェアは、システム内の個々の装置に目を光らせ、時には侵入検知など他のサブシステムからの入力情報を統合する。



PSIMと連携できる入退管理。

しかし、こうした管理プラットフォームは、エレベータや温度調節器また照明などのすべてを統合できるわけではなく、独自仕様であるのが普通である。発生している緊急事態の種類にもよるが、真のPSIMならば、ベンダに左右されることなく、従うべき一連の手順を操作担当者に明確に伝えることができなければならない。

PSIMについて普遍的な定義は存在しない。「PSIMプラットフォームを他と明確に区別する独自の機能は数多く存在する。これらの機能の大部分は、ビジネス上の実際の課題に対応し、究極の価値を提供するという顧客要求に基づいた機能である」とコンピュータ・ネットワーク社(CNL)北中南米担当責任者のマッサー・クシュナー氏は語る。「驚いたことに、一部のVMSやACS企業がPSIMの意味を拡大解釈してPSIMを製品ラインナップに加えようとしている」。

統合管理プラットフォームは、警報データや映像またカード利用などの入力



ハネウエル・
インタナショナル社
バスカー・ガングリイ氏



コンピュータ・
ネットワーク社
マッサー・クシュナー氏



ボッシュ・セキュリティ・
システムズ社
ホルガー・マイヤー氏

情報を収集する以上の機能を発揮することが必要だ。「真の PSIM ソリューションは、遙かに高水準の統合を実現し、監査可能なデータベース管理システムに双方向インタフェースを付け加える」とクシュナー氏は語る。「この水準での統合こそが各施設での完全な指令と制御を実現し、地域責任者が全体状況を認識し、上級管理職がセキュリティの状況が会社の事業収支にどのような影響を与えるかを認識することができる、唯一の方法だ」。

システム固有の管理ソフトウェアでは機能は限られている。「統合ソリューションを提供する VMS や ACS のプラットフォームは数多く存在する」とジョンソン・コントロールズ社セキュリティ技

術&効率担当国際責任者のブランドン・アルセメント氏は語る。「一般的に言えば、これらのプラットフォームは技術者がサードパーティ機能の統合以外の優先事項を重視することが多いという理由から、PSIM ソフトウェアとしての柔軟性に欠け、ソフトウェア基盤のレベルで、アプリケーションや制御ロジックプログラムによる何らかの制約を受ける」。

ACS と VMS は、特定のシステム要求に対応しているため、PSIM ほど複雑ではない。「オープンな PSIM を使用すれば、ほとんどすべてのものを取り入れることができる」とボッシュ・セキュリティ・システムズ社統合システム構築マネジャーのホルガー・マイヤー氏は語る。「一方、映像と侵入検知だけを統合して

いる ACS ソリューションもあるが、付加価値再販業者 (VAR) やシステム構築者にとって、こうしたソリューションの導入が簡単だ」。

真の PSIM ソリューションは、他のいかなるタイプのソフトウェアよりも、多くのセキュリティシステムのデータを関連付けることができる。「PSIM ソリューションは、様々なシステムと技術をサポートするように構築しているため、操作担当者向けの表示と情報の流れは、環境をより一層全体的に眺めることを可能にする」とプロキシメクス社製品管理担当副社長のラリー・リエン氏は語る。「映像や警報情報だけに焦点を合わせるのではなく、多数の各種センサやシステムからの情報を結び付けたり関連付けたりして、最も重要なデータを操作担当者に提供し、操作担当者のイベントへの対応力を向上させる」。

システム統合

システムを PSIM に統合する方法は多数存在する。ハードウェアメーカと連携し、PSIM ソリューションをサポートしている PSIM プロバイダもいれば、ソフトウェア企業のみと連携している PSIM プロバイダもいる。結果として、最終的な管理プラットフォームの統合化の度合いはまちまちだ。

PSIM にシステムを統合するには 3 つの方法がある。第一の方法はハードウェア的な統合とアルセメント氏は言う。次いで、BACnet や Modbus、Lon や OPC といった標準的なプロトコルを使用する統合がある。

PSIM では、標準化した OPC クライアントが OPC サーバと通信するため、統合は簡単である。「サブシステムは、接続した検知器とカメラからのデータを伝



PSIMにより操作担当者は迅速な対応策に着手できる。

送できるため、この情報を PSIM 側で処理し表示することができる」とマイヤー氏は言う。「一方、PSIM をプログラムして、カスタマイズした 1 つの共通ユーザ・インタフェースから接続した様々なサブシステムを制御することができる」。

最後に、メーカ提供の API (Application Programming Interface) や SDK (Software Development Kit) を使用してシステム統合することができ、これが最も強力な統合となる。「API を使用することにより、より多くの情報を入手でき、開発者は統合化においてより多くの機能をサポートすることができる」とアルセメント氏は言う。「唯一の欠点として、このような統合はスケジュールと開発に時間がかかり、さらに多くの場合はサブシステムのバージョンアップ時に大規模な保守が必要になる」。

通常では、ハードウェアの統合よりもソフトウェアの統合の方がより効果を上げることができる。「肝心なのはイベント情報と制御の統合だ。従って、通常ソフトウェア的な統合を選ぶことになる」と S2 セキュリティ社ジョン・モス CEO は語る。

システム構築者や設置施工業者は、SDK を使用することにより、VMS 用などの様々なユーザ・インタフェースを作成することができると元設置施工業者アルフ・チャン A&S 誌上級顧問は語る。標準的なプロトコルで大部分のセンサをカバーできるので、Wiegand カード読取機はほとんどすべてのプラットフォームと統合できる。

しかし、複数システムの保守は複雑なものになる。「システムの構成要素それぞれを最適化しようとすると、システムそのものが非常に脆弱になる」とマックスセス・システムズ社ケビン・ダ



煙検知器なども標準化したソフトウェアで統合することができる。

リ CEO は指摘する。「多くの場合、統合の度合いを緩めても、予想したほど重大な不利益を被ることはない。システム構成要素を変える際の柔軟性が高まるからだ」。

新たな統合

サードパーティのソフトウェア統合は技術的にはさほど困難ではないが、メーカ側が機密事項をすべて開示したがない場合もある。そのため PSIM ソフトウェアでは、独自ソフトウェアを表示できるかもしれないが、内蔵の解析機能などすべての機能をそのまま実行できるとは限らない。

サードパーティシステムとの統合は、サブシステムが業界標準規格をサポートしていれば単純な作業になる。「ONVIF はこうした統合化の好例であり、今後はネットワークカメラだけでなく、サーバ

ベースの解析エンジンや ACS も統合可能になる」とシーメンス・ビル・テクノロジー社アナルド・メケリ CMO は語る。

PSIM プラットフォームの統合化は、システムメーカが SDK や API を通じて提供する統合機能と同等に奥が深い。「一般に、最大の障害はローカルレベルで受容可能なサービスを提供する様々なシステムが多数存在することだが、これらのシステムは意図的に独自システムとして設計されており、これらのシステムすべてを一つのシステムに統合するのはほとんど不可能」とクシュナー氏は言う。「セキュリティ機器メーカは、共通のグラフィック・ユーザ・インタフェース (GUI) による相互運用性をほとんど不可能にしまった」。

マイルストーン・システムズ社とシスコシステムズ社の VMS 上で Agent Vi 解析を使用できるようにする事業を最近実



ジョンソン・コントロールズ社
ブランドン・アルセメント氏



プロキシメクス社
ラリー・リエン氏



A&S誌上級顧問
アルフ・チャン氏

施した。しかし、「各システムが表示する解析結果にあまりにも大きな差違があったため、また操作担当者の対応を統一するため、細かい操作を追加しなければならなかった」とクシュナー氏は述懐する。

また、最も日常的な機能をPSIMに期待するのは合理的であるが、あらゆる機能に移転できるとは限らないとアルセメント氏は言う。プロトコルや統合化の方法によっては、ある種の情報が伝送できないことが考えられる。これは、サブシステムメーカー側がこうした機能を共有API経由で公開しない道を選んだのか、PSIMの開発者がSDKの一部をサポートしないことを選択したのかのいずれかだろう。

インターグラフ社は緊急時の対応に重点を置き、最も基本的な必須機能だけを運用上の要求に合うように統合している。「あらゆるものを直ちに統合する必要があるわけではない」と同社セキュリティソリューション戦略担当常務取締役のボブ・スコット氏は語る。「当社の目標は、統合を通じて運用上の機能を拡張し、要求の拡大と共に成長し進化できるプラットフォームやフレームワークを提供することにより、ユーザーに価値を提供することだ」。

現実世界の技術

PSIMは実際に利益を生み出すが、誰もがその利益を享受するわけではない。4台のカメラで構成する小規模システムでは、圧倒的な量の入力情報を管理する指令制御プラットフォームは必要ない。一般に、空港や原子力発電所あるいは病院などリスクの高い大規模事業ではPSIMを使用することで利益を得られる可能性が高い。

建築業界には不況の波が訪れてきているが、それに伴いPSIMの需要も下降線をたどってきたと考えている専門家もいる。「PSIMの導入数は近年減少している」とチャン氏は言う。「ほとんどの商業高層ビルでは、少なくとも物理的セキュリティの設置施工業者は、PSIMの代わりに独自の監視管理ソフトウェアを使用することができる」。

しかし、ロバートボッシュの子会社ADCは違う考え方をしている。「当社の場合、シンガポールではシームレスな統合化の見込み顧客も入札者数も増えてきている」とADCテクノロジー・インタナショナル社ダニエル・コック事業開発担当マネジャーは指摘する。「IT基盤は、電子技術を使用するシステムほぼすべての通信基盤としての役割を果たしている。技術が進歩し、より広い帯域幅に対

応した高速化と低価格化が進むにつれ、セキュリティ製品も足並みを揃えてそれに追随し、こうしたバックボーンの利点を活用していくことになるだろう」。

他の市場関係者も、PSIMの成長を認めるようになってきた。「北米や欧州のように既存施設でPSIMをより頻繁に使用する成熟市場もあれば、アジアや中東などの新興市場のように、新規建設事業でPSIMが要求される頻度が多くなってきた」とアルセメント氏は語る。

高いリスクを抱えているユーザによるPSIMの採用が増えてきた。ガングリィ氏も「地理的に分散した企業や、事業継続に懸念がある企業が採用するケースが多い」と言う。「新規建設施設のセキュリティ上のリスクが高いと考えるユーザは、最新技術に投資し抜け穴に潜む危険を減少させようとする傾向が高くなる」。

PSIMは、業務管理の効率を高める目的で導入されることもある。「基礎セキュリティ基盤を既に構築している顧客が、利用可能な情報を生産的かつ知的に活用し、収益を上げることを希望する場合がある」とガングリィ氏は言う。「しかし、これはPSIMシステムを構築し日常業務に使用している場合に限られる」。

「PSIM事業数は大幅に増えてきており、特に既に稼働中の異種セキュリティ・ビルシステムを組み入れる必要がある新設導入や追加導入での採用が増えている」とViSセキュリティ・ソリューションズ社ステファン・ムーディ開発マネジャーは語る。しかし、複数のサブシステムを統合するには大量のリソースが必要であり、サードパーティのハードウェアという障害にぶつかる場合もある。次の記事では、PSIMソリューションを有効にする要因を、コスト面での検討事項や課題と並行して探ってみる。 **A&S**

NSV6 シリーズ + NSS IP カメラシリーズ

NSV6 シリーズは OS にエンベデッド Linux を採用したスタンドアロンタイプの NVR、NSS IP カメラシリーズはコストパフォーマンスに優れたネットワークカメラシリーズです



NSV608・NSV616



NSV602・NSV604

製品概要

NUUOが全世界に向けて送り出したネットワークビデオレコーダーです。2ch、4ch、8ch、16chとあり、2chは導入後でもライセンスを購入する事で4chにバージョンアップが可能です。30社以上のIPカメラメーカー、800種類以上のモデルに対応しており、異なるメーカーのIPカメラを同一のシステムに組み込むことができます。メガピクセル以上の高画質映像もそのままに録画できるので、再生映像をはっきりと細部まで見る事が出来ます。IPカメラ1台から数千台に至るシステムを構築する事が可能です。



主な仕様

項目	NSV616
録画可能カメラ台数	1~16
搭載可能ハードディスク台数	SATA II × 4 (最大8TB)
RAIDレベル	RAID 0,1,5,10
I/Oインターフェイス	USB2.0 × 2 (UPS用), eSATA × 1
LAN伝送速度	10/100/1000 Mbps (RJ45)
フレームフォーマット	MJPEG, MPEG4, M-JPEG, H.264 (IPカメラに依存)
録画性能	1.3M画素で約180fps最大ビットレート55Mbps
クライアントPC CPU	Intel Core2 Duo 2.6GHz
クライアントPC RAM	1GB
クライアントPC OS	WindowsXP/2003/Vista/7(32bit)
ユーザーインターフェイス	Internet Explorer7.0以降、専用クライアントアプリケーション
録画モード	連続、スケジュール、マニュアル、イベント、カメラデジタル入力
遠隔ライブ映像コントロール	ライブ映像、PTZ機能、リモートI/O、スナップショット
遠隔ライブ映像最大モニタリング数	16
音声録画	音声および映像の同時録画(同期)
自動バックアップ	FTPサイトへの自動バックアップ
IVS再生検索	動作検出、置き忘れ検知、遺失検知、ピン外れ、カメラ遮断検知
動作可能周囲温度	5~35度(湿度10~85%)
外形寸法	152.5(幅) × 188.2(高) × 229.6(奥)mm

特長

- 日本語メニュー対応
- OS はエンベデッド Linux
- PC レスの録画
- WEB ブラウザでライブ映像の確認と録画の再生
- H.264 圧縮方式、メガピクセルの IP カメラに対応
- 多くのメーカーの IP カメラとの互換性有り
- CMS (集中管理システム) に対応
- IVS 再生検索機能
- RAID 0,1,5,10 に対応
- 外付け HDD に対応
- I/O に対応



NSSのIPカメラシリーズは、2メガピクセル、Wi-Fi対応などお客様のニーズにお応えできるコストパフォーマンスに優れたネットワークカメラシリーズです。

第19回 セキュリティ・安全管理総合展

SECURITY SHOW 2011

2011年3月8日(火)~11日(金) 10:00~17:00 (最終日 ~16:30)

NSS Booth # SS3514

今年のNSSブースは「NUUOとメガピクセルIPカメラが実現するマルチソリューション」をテーマに、製品の具体的な構成例や活用例をご提案し、より実践的な情報が一目でわかる様に展示しております。高画質のメガピクセルカメラ、Wi-Fi対応カメラ、スマートフォンとの連動やマーケティングに役立つ各種機能、また、施工等にも役立つ様々なPoEソリューションも紹介しております。是非、NSSのブースにお立ち寄り下さい。

会社概要

株式会社NSSは、セキュリティ先進国で豊富な実績を誇る※NUUO、Brickcom、CPCAM等の正規日本販売元として、CCTVおよびIPのセキュリティ関連製品を国内の販売代理店様を通し、官公庁をはじめ病院、マンション、学校、コンビニエンスストア、一般企業に至るまで全国のあらゆる場所に導入させて頂いております。

また、自社ブランドのみに留まらず、国内外のメーカー各社からより良い製品をピックアップしてご提供しております。通常ラインアップにご要望の製品が無い場合は、商社機能を使って世界中から探し出す事もございます。

※NUUO社は台湾に本社をおく世界トップレベルのNVRメーカーです。

NUUOは欧米、欧州、アジアなど世界60カ国の政府機関、銀行、病院、ホテル、カジノなどの大型施設へ20000サイトの豊富な導入実績があります。

■ 弊社は2009年11月にNUUO社との間で日本正規代理店契約を締結致しました。



株式会社 NSS

〒816-0902 福岡県大野城市乙金1-10-40
TEL 092-504-7370 FAX 092-504-7371
E-Mail info@cpcam.jp

東京営業所 TEL 03-5418-6090 FAX 03-5418-6091
大阪営業所 TEL 06-6391-3444 FAX 06-6391-3446
高松出張所 TEL 087-813-8414 FAX 087-813-8416

<http://www.cpcam.jp/>

名古屋営業所 TEL 052-253-7913 FAX 052-253-7914
札幌出張所 TEL 011-708-3010 FAX 011-708-3020

脅威への対応を さらにスマートに

PSIMの良し悪しを決めるのは何か。信頼性やコスト効率そして様々な操作担当者にとって使いやすいユーザ・インタフェースの存在が重要な課題となる。

a&s International

PSIMは、まさに状況認識のための手法である。優れたプラットフォームがあれば、状況の悪化を防ぐことができる。火事をはじめとする命の危険が迫った状況でも、統合的に対応できれば多くの生命を救うことができる。

しかし、PSIMソリューションも、ユーザ・インタフェースが複雑であれば、操作担当者が迅速に操作し対応することができなくなるとアルフ・チャン A&S 誌上級顧問は語る。

優れたPSIMなら、システムを総合的なプラットフォームに一体化できるはずだ。「PSIMは、あらゆるデータを円滑に入手し、単一の分析表示、記録形式に変えることができなければならない」とハネウェル・インタナショナル社基盤保護&自動制御ソリューション部門国際マーケティング部長のバスカー・ガングリイ氏は語る。

PSIMシステムは、特に危機の際の人間心理を理解した上で構築しなければならない。「操作担当者は、事件の最中に重要でないデータに圧倒されることなく、容易に理解可能な方法で必要な情報をすべて入手できなければならない」とガングリイ氏は言う。

統合化のためのプラットフォームは簡単に操作できなければならない。ワンベリイ・テクノロジー社ケン・ペレイラCEOは、「一般的に言えば、操作担当者とのやり取りが少なく済むシステムが最良のソリューションだ。また自動化は、堅牢なPSIMソリューションの成否を分ける重要な要素だ」と語る。

PSIMソリューションは確実に普及していくと予測されている。

直感的に操作することができ幅広く自動化されていれば、使い易さが向上する。「操作担当者が1つのグラフィカル・ユーザ・インタフェース(GUI)で操作できること。さらに、通信機能を統合したポータブルな柔軟性が必要不可欠だ」とViSセキュリティ・ソリューションズ社セキュリティ開発マネジャーのステファン・ムーディ氏は語る。「これで、事故管理と現場での効率良い活動が可能になる」。

顧客の要求を満足することができ、最も簡単で、効率の良いアーキテクチャを備えていなければ、優れたソリューションとは言えないとADCテクノロジー・インタナショナル社ダニエル・コック事業開発担当マネジャーは語る。逆に、良くないソリューションとは、複数のベンダから購入した多数の要素で構成していて、システム構築者がそれを管理することができないものだ。

システムの安定性

優れたPSIMプラットフォームは、サブシステムの1つが故障しても動作し続けなければならない。「使用中に、モジュールや構成要素が事業要件を満足しなかったという事例は多い」とペレイラ氏は言う。「そして、このモジュールが



故障した時、システム全体が影響を受けた。顧客は、徹底的に試験した完全なシステムを採用すべきだ。システムの信頼性の鍵は分散化だ。」

モジュール方式であれば、建物やセキュリティシステムを場合に応じてオフラインで運用するなど設備の予期せぬ停止を防止することができる」とチャン氏は言う。

うまくネットワーク化すればシステム損壊を防止することができる。「システムの可用性を100%保証することはできないが、標準的な冗長性とフェイルオーバー・アーキテクチャを採用すれば、障害発生の危険性を大幅に減少させることができる」とジョンソン・コントロールズ社ブランドン・アルセメント国際セキュリティ技術&効率化担当マネジャーは語る。

ユーザは、ネットワークの冗長性に加えて二次的な検証手法を利用することができる。「例えば、映像や具体的な動作などの二次検知を行うことで、警報が正しく作動したことを検証できる」とガングリ氏は言う。「サブシステムのどれかが故障しても、利用できる別の検知ポイントが必ずある」。

個別対応化

PSIMは強力な機能を備えているが、すべてのユーザがそれを必要とするとは限らない。供給側は、個別対応が可能で柔軟なソリューションを設計し、ユーザやアプリケーションに対応する必要がある。広範な業種別市場で通信をサポートすることが可能なネットワーク基盤こそが最良とS2セキュリティ社ジョン・モスCEOは言う。

コンピュータ・ネットワーク社(CNL)は、特定の業種別市場向けのテンプレートモジュールを用意し、柔軟性と費用の



ワンベリ・テクノロジー社
ケン・ペレイラCEO



S2セキュリティ社
ジョン・モスCEO



インターグラフ社
ボブ・スコット氏

削減を実現している。「エンドユーザは必要なものだけに資金を投じればいい。これがこの手法の長所だ」と同社北中南米担当社長のマッサー・クシュナー氏は言う。「将来、機能の追加が必要になったら、モジュールを追加するだけで済む」。

モジュールやビジネスロジックテンプレートは、システム管理者の時間を節約する。「一般的な動作や対応には、テンプレートを使用して対応できる。また、テンプレートはカスタマイズが可能だ」とプロキシメクス社ラリー・リエン製品管理担当副社長は語る。「管理者と構築者は、基準テンプレートを再利用するか、必要に応じて独自のテンプレートを作成することができる」。

現在、PSIMには標準規格は存在しないので、一部のプロバイダは、システム間での通信を可能にするため、インタフェース用コネクタを作成している。「我々が作成したコネクタは、市販製品の機能の一部になっている」とインターグラフ社セキュリティソリューション戦略担当常務取締役ボブ・スコット氏は語る。

ユーザは、ハードウェアベースのシステムの経験を持ち込むことが多いが、これが期待外れの結果をもたらす大きな原因になっている。マクスセス・システムズ社ケビン・ダリCEOは、「ソフトウエ

アベースのシステムの場合、当社では仕様に条件を付け過ぎないように奨励している。無駄な費用につながる可能性があるからだ」と語る。「システムの動作を理解すれば、全然かほとんど不利益を被ることなくシステム変更が可能になる。ソフトウエアの場合、要件を少なめにしてシステムに慣れ、そのうえで機能の追加を考えた方がうまくいく」。

現場固有のソリューションの場合、プログラムの選択肢を柔軟に選択できるようにしておくとも最もうまく対応できるとシーメンス・ビル・テクノロジー社アナンド・メケリCMOは語る。「ソリューションのライフサイクル中のサポートが極めて困難になる独自の個別対応化を避けるには、ルールエンジンが不可欠だ」。

ある顧客用に作成した一連のルールとワークフローを、同様の要求を持つ別のユーザに販売することもできる。しかし、顧客がソリューションの独占的権利を要求する場合はボッシュ・セキュリティ・システムズ社ホルガー・マイヤー統合システム構築担当プロダクトマネジャーは語る。

複数の関係者

PSIMプラットフォームは管理者やガードマンが使用することになるが、これらのユーザは固有の要求を持つ。また、

複数の関係者が存在する現場（例えば空港では税関関係官や警察当局など複数の関係者が存在する）では、権限レベルは現場ごとに異なる。

1つのシステムが、異なる複数のGUIを備える場合がある。「システム内で多くのプロトコルを使用して、通信を行えなければならない」とチャン氏は言う。

管理権限とアクセス権は、通常、階層型システムに基づきユーザのジョブとニーズに応じて付与するとガングリイ氏は言う。優れたシステムでは、管理者が各ユーザに権限を割り当てることができる。「各操作担当者のアクセス権をカスタマイズし、セキュリティ権限のレベルに応じて、表示や管理が可能な対象を指定できる、動的なシステムを実現しなければならない」と、ペレイラ氏は語る。「管理者は、この機能を利用して各操作担当者の責任範囲を決定し、業務遂行状態を監視することができる」。

新旧の狭間

PSIMは事業目的に対応しなければならないため、慎重に計画し構築する必要がある。従来システムが存在する建物に比べ、まだ何も新しい場所に導入する方が簡単のため、ほとんどのPSIMは新しい場所に配備されることになる。「一

般に、現在のシステムと当社システムとの入れ替えを要求される場合は、より多くの時間を費やす作業になる」とマイヤー氏は言う。

導入場所が新しければ、最善の製品を選ぶことができるため、PSIMの統合も容易になるとモス氏は言う。しかし、サブシステムを完全に切り替える費用は桁違いに高額になる場合がある。アナログビデオ回線など既存のケーブル基盤もアップグレードを制限する要因になりうる。

新規案件では、計画段階からセキュリティを盛り込むことができる。「様々な装置が混在する環境でのデータ管理と統合のあらゆる側面を詳細に議論し、セキュリティ要件を満足しなければならない」とペレイラ氏は言う。「カメラなどの様々なセキュリティ装置の設置場所と入退管理は、建物を新築する際の構造と電気計画に組み込まなければならない」。

しかし、建物の老朽化に伴い、統合にはリフォームが必要になるとコック氏は言う。アルセメント氏も同じ見解で「実際、建物とセキュリティ技術という異質なものの既存投資を有効活用し、システム統合によってセキュリティを強化したいとオーナーが望む場合、PSIMは、施設および組織において最も価値あるものとなる」と述べている。

事業の新旧を問わず、ユーザは複数の単独システムを扱うことになる。「今日の世界では、システム間の情報共有の質を高め、セキュリティ操作担当者との関係者の共同作業を可能にする優れた手段を提供することが重要だ」とリエン氏は言う。「PSIMは、技術間の格差を埋めプロセスを改善

し、セキュリティを向上させコストを低減するソリューションだ」。

価格に関する考慮

PSIMの強力な性能を活用するには、既存設備とサブシステムへの投資に加えて、初期投資が必要になる。ほとんどのプロバイダは、システムの数や必要な機能、ライセンス数に応じて対応可能なモジュールパッケージを販売している。通常、保守は別料金となる。

ボッシュ社はオプション付きでライセンスを販売している。「ドアや検知器、カードホルダやカメラの数量が多いほど、エンドユーザの負担も大きくなる」とマイヤー氏は言う。「機能追加や個別対応が必要ならば、それだけ対価を支払うことになる。保証期間が切れてからの数年間に備え、有償のカスタマイズサービス保守契約とサービス品質保証契約（SLA）を締結しておけば、その後何年もの間、引き続きシステムを稼働させていくことができる」。

ここで関与する価格要素として、システム、装置類、サポートするメーカ数などが挙げられる。設備によっては、異なる3社の入退管理システムの供給者が存在し、さらに統合化が必要になる場合もある。「これは、ユーザのタイプに大きく左右される。PSIMの配備も様々な形態をとるので、様々な業種に対応するため、様々な価格構成が設けられている」とクシュナー氏は言う。

PSIMベンダを1社に絞れば、コスト効率は向上する。「通常、システムに統合する構成機器数が多く、1つの契約だけで購入する場合、プロジェクトの規模により10%から30%のコスト節減が可能になる」とペレイラ氏は語る。

毎年更新するサポートも予算化する必



マクスセス社
ケビン・ダリCEO



シーメンス・ビル・
テクノロジー社
アナンド・メケリCMO

要がある。「当社では、ヘルプデスクへの問い合わせやアップデート、トレーニング付きのソフトウェアサポートを提供しており、年間料金はソフトウェア費用の10～15%」とダリ氏は言う。

インターグラフ社の場合、ライセンスと保守とトレーニングを組み合わせたセット価格になっている。「当社のソフトウェアは、無期限ライセンス料金で販売している。通常、サーバ側とクライアント側のソフトウェアモジュールであるライセンスソフトウェアの1回払い料金、システムの構成、統合、トレーニング、手数料という導入サービスに加えて、年間保守料金が発生する」とスコット氏は語る。

どの支払方法が適切かはユーザ側で決めることができる。「技術購入を考える場合、ライフサイクルコストは常に重要な検討事項である」とアルセメント氏は言う。「そのため、設計段階で支払方法やライセンス構成でどれが最善かをエンドユーザにしっかりと伝えることが重要になる」。

操作担当者の教育

PSIMは、導入すればすぐに運用開始できるようなものではなく、機能に習熟するには教育が必要だ。プラットフォームの複雑さにより、操作担当者向けの教育は2日から最大2週間ほどかかる場合がある。

システムの複雑さは導入場所の規模で決まる。「操作担当者のシステム全体の操作の習熟は、個々の操作担当者の取り組み方に左右されると思われる」とコック氏は言う。「全体では組織にとって大きな費用節減になると考えている」。

PSIMを導入すれば機能は増えるが、操作は簡単明瞭であるべきだ。「適切に

設計、配置すれば、プラットフォームのインタフェースとワークフローにより、快適な使い易さが得られる」とアルセメント氏は言う。「操作担当者は、マウスとキーボードによる快適な使い勝手を得られるが、管制室のプログラマがそのために実効的な働きをする必要はない」。

評価基準

PSIMプロバイダは、電子セキュリティとネットワークに習熟した、経験豊かなパートナーとシステム構築者を求めるのが常だ。「PSIMのような高水準の統合化ソリューションを配備するとなれば、長期にわたり安定したパートナーを得ることが重要である」とメケリ氏は語る。

CNL社の評価基準には、企業の操業年数や平均処理規模、マイクロソフトやシスコシステムズの認定資格を取得している社員の数などが含まれるとクシュナー氏は言う。

マクスセス社はパートナー向けの教育を実施しているが、第三者機関による認証をパートナーに要求することはない。しかし、状況によってはそうした認証が有用な場合もある。「ネットワーク化は、それが当社のシステムにどう影響するか、また他のシステムとどのように統合化していくか、その両面で極めて重要な課題となる」とダリ氏は語る。

また、システム構築者は、オーナーと密接なつながりを持ち、組織の業務とセ



空港には多くの業務担当者が存在し、それぞれ異なる承認を行うためにPSIMへのアクセス用GUIを改良している。

キュリティプロセスを理解しなければならない」とアルセメント氏は言う。

設置施工業者やシステム構築者は、ネットワーク構築技能に加えて、サブシステムの接続の経験も必要だ。「昔の話だが、壁に配線を這わせそこから制御装置につなぎ、キーボードを叩いてデータを入力しなければならなかった。今では、この部分が最も簡単になっている」と、マイヤー氏は言う。「骨が折れるのは、最適なシステムを設計しその上でユーザの組織形態と要件に即した機能をプログラムすることだ」。

また、システム構築者は、PSIMプロバイダの評価も行わなければならない。アイルランドのシステム構築者ViSセキュリティ・ソリューションズ社は、システムアーキテクチャや柔軟性、費用や手法の独自性を評価して、プロキスメクス社をパートナーに選んだ。「同社は英国と欧州で大躍進を遂げた企業で、確かな対応と品質を保証してくれる」とムーディ氏は言う。「また、同社担当部門は前向きで、顧客の要件の満足とシステム設計に大きく貢献してくれることがわかった」。

従来からの課題

PSIMは、システム統合、データ管理の容易さの維持、明日のための計画立案という成長過程の痛みを味わっている。これらの課題を解決するには時間と努力を要する。既存設備が存在する場所では、混成システムへの対応がPSIMの品質証明となる。「アップグレード案件では、既存設備に新技術を統合する際の互換性にまつわる課題が中心となる」とガングリイ氏は語る。

古い設備は時として扱いにくい。「エンドユーザからオープン SDK も API もないシステムへの統合の依頼があった。そのメーカーは、標準規格をことごとく排除して、反 Microsoft とも言える独自の製品を開発していた」とクシュナー氏は語る。「当社は何とかやってのけたが、基準に準拠していないことが、当社にとって最大の難関だった」。

基準に準拠していないと相互運用性など程遠いことになる。「こうした課題は、PSIMのような統合化技術の活用をサポートする基準の進化と操作に対する考え方の進化に関わるものだ。実際、この市場はまだ初期段階にあり、当社は、技術革新を求める企業や早期導入者を相

手にビジネスを行っている」とスコット氏は語る。

人間味

PSIMプラットフォームは、無数の洗練された機能を有する場合もあるが、それでも人間にとって身近な存在でなければならない。最高の仕様を備えていても、インターフェースが複雑すぎて実用に向かないのでは役に立たない。「ボッシュ社にとっての大きな課題は、どのサブシステムにも接続可能で、どのユーザのニーズにも個別対応が可能なソリューションを実現することだが、当社認定の付加価値再販業者 (VAR) やシステム構築者をもってすれば対応できる」とマイヤー氏は語る。

案件が大型化すればPSIMの適用範囲は複雑になる。「当面の大きな課題は人を効率良く動かすことだ」とダリ氏は言う。「今日の組織は分散化が進んでいる。1つのビルや校内にとどまらず、40～50の施設を一元的に管理しており、多くの場合、少なくとも一部の情報は中央拠点に送信されている。こうしたシステムでは、現場と中央でそれぞれ何をやるかということが、システム設計において

きわめて重要な検討事項となる」。

機器が複数のソースからのデータを高速処理するなど、それぞれ最も得意とする機能を発揮し、その一方で、人間である操作担当者が最も適切な対応をすることが重要だ。その結果、操作担当者は退

屈な仕事から解放され、よりスマートな業務遂行が可能になる。

将来にわたる保証

大規模案件ではどのくらいの伸びが見込めるか、それを見極めるのは難しい。「PSIMベンダが直面する技術上の課題は企業の拡張性だ」とクシュナー氏は言う。「企業レベルの拡張性を念頭に置かずに設計されたシステムもあり、PSIMのような機能を追加しようとすることは、一部の企業にとっては極めて困難な課題となっている」。

将来は曖昧模糊で、よく練られた計画をも狂わせる。「ゼロからシステムを構築する場合は、早い段階でユーザの要件を正確に予測し、確定することが課題となる」とガングリイ氏は言う。

さらに抽象的な問題は、未来の技術であるPSIMが、現在すでに実用に供されているソリューションであることを証明することである。「残念ながら、統合というものは、従来から何度もエンドユーザの前に提示されてきた課題であり、エンドユーザは多くを期待するため、統合化の手法は限られたものになっている」とクシュナー氏は言う。「それでも、ありがたいことに、PSIMのおかげでこうした状況が変わりつつある。望むものを与えてくれるシステムを構築できることを理解したエンドユーザが増えている」。

今度どのような展開が待ち受けているとも、もはや統合化の波は止められない。PSIMは、既存の技術とネットワーク構築機能を利用し、データの適宜な利用を実現する。今後ますます多くの業務を自動化していけば、セキュリティ操作担当者はより多くの危険を監視し迅速に対応することができる。



優れたPSIMは緊急時の心理状態に対応していなければならない。

Brickcom

Expert in Wireless IP Surveillance

Brickcom社が提供する無線IP監視

無線監視システムの導入を検討したことがありますか？しかも、既設基盤や電気配線を使うことができることをご存知でしたか？

無線監視には、強力なソリューションを具現化するネットワーク映像監視が包含されています。これにより、監視や表示システムへの多大な投資を回避することができます。回避できることは、設置距離、ネットワーク基盤不足、関連要件、そして様々な費用などです。しかし、無線監視全体で見ると、通信帯域の要求や無線接続の信頼性が導入を躊躇させる要因です。

Brickcom社はコスト削減効果を提供し、無線IP監視システムの導入から運用までを円滑に遂行します。それは当社が、無線IPカメラを構築するネットワーク通信装置を提供する上で強力な後方支援を有しているからです。

導入時課題の克服

無線IP監視システムは、設置距離やネットワーク基盤不足そして費用といった導入課題を解決することができます。有線カメラでも距離的な制限があることから、広大な範囲で有線監視システムを検討することはほぼ不可能です。

遠隔区域での監視の場合、技術的に困難だけでなく、カメラ操作に必要なケーブルを設置する費用も増大になります。

無線監視システムでは、有線システムのように何ら制限を受けることなく、ユーザーはシステムを設置することができます。

Brickcom社無線IPカメラは、通信と電源供給でインターネットを使うことから、遠隔地や設置の難しい場所での設置が迅速にしかも簡単にできます。また、カメラとルータなどLAN機器の接続やセキュリティに関する設定を容易に行うことができるWPSにより、どなたでもすぐに無線監視システムを構築することができます。それぞれのカメラをBrickcomユーザ・フレンドリGUIで管理することができます。

帯域幅と信頼性への誤認

有線システムに固執したり無線システムの特長を誤解したりするといった

無線監視に対する多くの誤認があります。ユーザは、ルータや通信帯域の費用について悩むことがあります。そこで、Brickcom社は通信帯域の可能性を明示した無線システムを設計する柔軟性を提供しています。ウェブ上のGUIで、通常時は低フレームレートでの録画とイベント発生時の高画質録画と必要に応じて大切な帯域を使い分けます。

信頼性は無線監視システム導入を検討の際の大きな項目となってきています。一般には無線という言葉から、ルータやカメラの接続や重要な監視範囲の欠落などを懸念しまいがちです。

しかし、Brickcom社は、動作環境として気温0~50℃、湿度10~80%の範囲での完璧な操作を確立しています。無線信号が途絶えた時は15秒間で接続を再開します。しかもBrickcom社のカメラ・モデルはSD/SDHCメモ리카ード・スロットを装備していますので、接続が途切れていても必ず映像録画を確保しています。

Brickcom社のソリューション

Brickcom社は20年以上も通信機器を開発してきたR&D部門によるネットワーク映像機器の品質という確固たる基盤に支えられています。そして、こ

の強力な背景を活用して、メガピクセルと高画質と通信帯域を有効に活用するための3つの画像圧縮技術を包含したIPカメラを開発しています。

また、様々な用途で使い分けられることのできる製品ラインナップにより、あらゆるユーザの方々はそれぞれの目的と要求に適った監視システムを個別対応することができます。

さらに、無線機器での高画質映像を送信するために、Brickcom社はWiFiと3GそしてWiMAXと3つの無線システムを提供しています。当社のWiFiと3Gは、無線システムや3Gネットワークといった限定区域内で高画質映像を送信する時に最適です。WiMAXは広域をカバーして映像を送信する時に最適です。1つの基地とユーザが設置した装置を使用することで、電話級の信号送信と15kmの範囲での通信を使用することができます。

IP監視システムは、個人が自宅から離れた場所から自宅内を確認すること、企業人が盗難防止や中央管理部門からの複数拠点を視認による労働集約の実現などを可能にします。

Brickcom社は、無線IP監視システムを構築するユーザの方々に最新システムと無線送信ソリューションを提供していくことを約束します。




PSIMへの誤った風評

PSIMは、リスクの高い施設だけに適した高価なソリューションなのだろうか。コンピュータ・ネットワーク社(CNL)北中南米担当責任者のマッサー・クシュナー氏が、こうした誤った風評を覆す。

Q 映像管理システムと入退管理システムが、指令と制御や状況管理機能を備えていない場合、特に入退管理システムがIPベースで統合化が可能な場合、PSIMを使用して何が実現できるのか。

A PSIMプラットフォームを使用する完全なセキュリティ管理システムは、映像管理ソフトウェア(VMS)や入退管理ソフトウェア(ACS)を使用した異種システムの単なる接続とは異なる。

事業部門買収の結果か、それとも、企業サービスの一元化に向けた動きからか、先進的な企業は、異種システムを、統一された統合セキュリティ管理プラットフォームに一本化しようとしている。

一般に、最大の障害となるのは、ローカルレベルで受容可能なサービスを提供する様々なシステムが多数存在することであるが、これらシステムのすべてを一つのシステムに統合するのはほとんど不可能だ。セキュリティ機器メーカーは、共通のグラフィカル・ユーザ・インタフェース(GUI)による相互運用性をほとんど不可能にしてしまった。

企業は、既存のセキュリティ・システムを組み合わせ、自らが選択したブランドを使って拡張したり、機能不全に陥ったコンポーネントと選択したブランドの製品との置き換えを徐々に進めたりして

いる。こうした目的に最適なプラットフォームが、PSIMプラットフォームだ。

PSIMプラットフォームを他と明確に区別する独自の機能は数多く存在する。これらの機能の大部分は、ビジネス上の実際の課題に対応し、究極の価値を提供する、顧客要求に基づいた機能だ。こうした基本的な違いを、いくつか紹介する。

ベンダの独立性: 大多数のVMSおよびACSは、オープンアーキテクチャを採用していない。これらの技術のメーカーは、他の者すべてを排斥し、自らの技術を販売することに強い関心を持つ。こうした



本物のPSIMなら他のビジネスシステムと融合して相乗効果を発揮する

メーカーは、システムのソフトウェア、ハードウェアのできるだけ多くの部分の販売を確保するため、顧客基盤が比較的小さく、ニッチ市場を対象にしようとする。エンドユーザが、競合するVMSまたはACSの統合を望む場合、メーカーから何らかの支援を受ける機会はほとんど望めない。

移行: 真のPSIMは、古い技術から新しい技術への移行を管理する戦略的プラットフォームを実現する。PSIMは、多くの場合、組織が新技術を一定期間にわたり全部門を横断的にかつ段階的に導入するために使用される。多くの場合、こうしたことは、資本および営業費に測定可能な直接的影響を及ぼすことから、PSIMソリューションの最も重要な原動力となる。

強力な認証、パーミッションシステム: PSIMソフトウェアは、既存のIT標準を使用して、企業の認証方針に組み込むように設計されている。これにより、システム、操作担当者、ユーザの別を問わず、組織全体にわたる一貫したレベルのセキュリティが確保される。

プロセス説明と情報化ワークフロー: 警報管理プロセスを通じて操作担当者を先導できる能力が、PSIMの重要な付加価値である。これにより、企業の危機管理に沿ったセキュリティ操作や規制の

順守を目的としたセキュリティ操作を行うことができる。規制遵守の必要性は、PSIMソリューションの導入の促進力となる。これは、ほとんどのACSやVMSプラットフォームからなくなりつつある機能でもある。

管理報告と業務システムの統合: 真のPSIMソリューションは、事業価値の追加を目的として構築する。他の業務システムにリンクする能力があるため、事業業績を向上させることができる。

ビジネスのスピードとイベントが与える影響は、その範囲があまりにも広いため重要な状況データを運用レベルで維持しておくことはできない。詳細で専門的な報告は、単純な内蔵ツールを使用して容易に作成できる。管理報告書作成も自動化が可能で、できあがった報告書は、電子メールで各関係者に送信できる。

Q 一部のVMSベンダは、PSIMを高いセキュリティ要求に応えるための高価な上位個別対応ソリューションとして、PSIMに反対する立場を取っている。こうしたPSIMの適用性に対する考え方は、どの程度正確なのか。

A PSIMは、独自の物理的セキュリティ・システムを均一化し、セキュリティ操作を他の業務システムと連動することにより、事業価値を創生する。その結果、物理セキュリティ・システムは、他の業務システムと連携し、企業統治の中で機能を果たすことができる。この機能はVMSの統合化では到底実現できない。

VMSシステムの用途は限られている。一般に、VMSシステムはセキュリティ上の問題発生を防止する目的で購入される。しかし、VMSシステムが提供する価値は、現実にはセキュリティに関わるイベント発生後、ようやく一連のイベン

トをつなぎ合わせるることができるに過ぎない。映像解析システムで許容可能水準機能を達成したVMSシステムであっても、企業にとって重要な経営上のニーズと統合するためのツールを備えていない。

実際、PSIMソリューションは最もニーズが高かった、高度なセキュリティを備えた施設向けのハイエンドソリューションとして誕生した。ソフトウェアを開発しプロセッサの能力が高まったことから、これらのシステムの利用は大いに加速され、現在ではより一般的に使用されている。

PSIMソリューションは、その後さらに洗練され、セキュリティの強化、効率の向上、持続コストの低減など、組織にもたらす価値が強調されている。ユーザーが自らの優先事項を決定し、自身の独自の状況に応じて、PSIMの全部または一部のモジュールを導入できることが重要なポイントだ。

Q 異なる入退管理システムを統合するソリューションとしてPSIMを語る場合、PSIMは組織内での複数の物理的証明書の発行にどのように対応するのか。

A PSIMソフトウェアは、データベースレベルでデータを統合し、唯一の接点として人事データベースと連動し、複数のアクセス制御システム向けに証明書を更新する。これにより、効率的で安全に機能する全社的な身分証明書管理を行うことができる。



企業内の既存のITレベルを使用すれば、組織とシステム、操作担当者とユーザーの間で従来同様の環境を維持できる。

Q VMSや他のサードパーティシステムで利用するという形でPSIMが提案された場合、どのような問題が発生するか。

A 今日の市場では、VMSや他のサードパーティシステムとの統合に関する問題はほとんどない。

賢明なベンダは、PSIMが自社のビジネスと競合するものではないことを理解している。このようなソフトウェアプロバイダは、PSIMがエンドユーザにもたらす価値を認識しており、自社製品とPSIM製品の統合を切望している。

一部のVMS製品は独自製品であったこと、そして、個々の製品が完全に異なっていたことにより、必要なドライバを開発するために多くの時間を割かなければならなかった。幸いなことに、こうした状況は変わりつつあり、PSIA (Physical Security Interoperability Alliance) や ONVIF (Open Network Video Interface Forum) といったビデオの相互運用性の標準規格により、今後の統合化が迅速にしかも低コストで促進されることになるだろう。





文化遺産の防犯と保全

文化遺産を発見し、調査することは、私たち人間の何たるかを理解する第一歩である。博物館は、値段の付けられない文化的工芸品や芸術作品を収蔵し、世界各地から訪れる無数の見学者に扉を開いている。毎日、何千人もの見物客が通路を通る。修学旅行の子供たちはガラスケースに鼻を押し付けて、マケドニア王国時代の小さな装飾品に目を凝らすし、モナリザを一目見ようと数千キロもの空の旅を経て旅行客がやって来る。

博物館の館長や防犯責任者は、防犯と美学との釣り合いを取るという難題に直面している。文化的資産の保護は絶対に必要なものだが、防犯装置はインテリアデザインの価値を損なってはならないし、来訪者が展示物をじっくり見学するのを妨げてはならない。

a&s International

現在、博物館や史跡は、以前より大きな危険にさらされている。「多くの史跡は、もはや栄誉の上に胡坐をかいてはられない」とハネウェル・インターナショナル社セキュリティ・カスタムエレクトロニ

クス部門・英国&アイルランド地域マーケティング責任者トニー・マコシンスキー氏は語る。「これらの史跡は、さらに多くの収益源を必要としており、その結果、荘厳な建造物の多くは、会社機能と結婚式場の役割も果たすようになって

いる。そのため、施設とその高価な芸術品、展示品を保護する防犯システムは、十分な保護を維持しつつ、建物の中を自由に動き回りたいという人々の要望に十分応えられるように、更新が必要になっている」。

「大規模で注目を集める展示物が増えていることも一因で、博物館の人気は高まりを見せている。来館者数が増えており、電子的手段による防犯と警備業務の両方に負担がかかっている。」

ハンチングトンTブロック保険会社リンダ・サンデル上級副社長

「にもかかわらず、あまりにも頻繁に露見する貧弱な防犯仕様、不十分な保守、システム監査の不備を見ると、博物館の上級スタッフは知らぬが仏を決め込んでおり、防犯感覚まで狂っている」と、芸術危機管理顧問チャールズ・ヒル氏は言う。

テロの脅威も、この2年間、博物館の館長が直面する新たな問題となっている。「博物館の内容と施設そのものが、地域社会との強い絆を育み、世界規模での認識につながっている」とチャブグループ研究所シェイラ・パーマー損失管理サービス担当副社長補佐は語る。「博物館は大勢の人々が集まる可能性のある場所。こうした特質から、博物館は潜在的な攻撃目標にされる」。

「現在、スタッフは、歴史的な建造物の再生と既存の監視システム統合とアップグレードを検討している」とバサップ理事長のワエルデン氏は言う。防犯システムや防犯対策は必要だが、常に心配なのは予算である。「ほとんどの博物館は予算面で苦勞しており、アップグレードの余裕がないのが実状だ」と米シカゴに本社を置く保険会社エーオンのグループ企業であるハンチングトンTブロック保険会社リンダ・サンデル上級副社長は語る。

台湾の国立故宮博物院では、防犯への予算割当は毎年変動する。「防犯予算は、防犯の必要性によって変動する。一般に、保守にしか費用をかけていないので、全体の予算の中ではごく一部で

しかない」と登録および保存部門学芸主査のジョー・シン・チ氏は語る。「しかし、新設部門を含む前回の事業計画では、防犯は全体予算の10%だった」。

各地の博物館館長が、施設を保護運営していくために防犯技術を使用する必要性を理解しており、この市場は成長が見込まれる。「世界規模の景気後退が、この市場に影響を与えたのは間違いない。しかし、コスト効率の高さが実証され始めていることから、防犯技術は市場を動かしていくだろう」と、ADT保険会社プロダクト・マーケティング・マネジャのフィル・バーウェル氏は語る。

例えば、制服を着た警備員が不要なわけではないが、敷地内の安全を確保するための警備員の数を減らすことは可能だ。通路を警備する要員の数を減らしても差し支えなく、警備員は、システムが

警報で知らせた侵入者への対応のみが必要となる。「給与、福利厚生費、研修費用など関連支出を節約している。ある有名な大学博物館では、運用を開始した最初の6カ月間で、3万米ドルを節約している」とアクイティVCT社ダン・ラズタ営業担当取締役は語る。

意思決定

博物館や史跡で導入される技術とシステムは、館長の選択技の先を行く。多くの場合、保険会社は、保証の種類に直接影響するセキュリティレベルを規定する。「ほとんどの芸術作品は、固有価値が高く、画廊や博物館に寄贈されることが多い」とハネウェル・インターナショナル社管理安全システム部門英国担当マーケティング責任者であるダニエル・ワン氏は語る。「その結果、資産を盗難から守るだけでなく、保険費用の高騰阻止という大きな責任もある」。

一般に、物の価値が高いほど保険料も高くなり、保険会社の要求に従って、防犯要件もいっそう厳しくなる。「芸術作品はかけがえのないものであるため、



夜、博物館の扉にかんぬきを掛け、周辺監視により、あらゆる侵入者を敷地に入る前に阻止しなければならない。



美術品保険による金銭的保証では、別の美術品を購入する資金しか得られない。値段の付けられない所蔵品を取り戻すことは決してできない」とサンデル氏は言う。「これが、美術品保険会社が、最先端の防犯、防火システムに厳しい要件を課し、損失防止を非常に重視している理由だ」。

保険会社は、保険契約を作成する前に危険性の評価を行う。「多くの博物館、防犯コンサルタント、保険会社が、危険性評価を行う際の比較基準として、スミソニアン協会の防犯ガイドラインを使用している」とサンデル氏は語る。

不適切なセキュリティを導入すると、結果として高額な保険割増金が必要になる。「博物館は、個々の要求に基づいて、可能な限り最上のシステムを導入すべきだ。適切な保護手段を取ることで、ほとんどの場合、有利な保険条項と価格に結びつく」とサンデル氏は語っている。

境界線で危険を阻止

博物館や史跡の保護の第一歩は、侵入者が敷地内に入る前に阻止するか侵入を遅らせることだろう。「博物館や史跡の防犯の多くが施設内部に重点を置いていることから、博物館などの屋外周辺防犯は成長市場になっている。美観、天候、環境など考慮すべき事柄が関わり、防犯の意思決定の一部となることから、通常の脅威や予算といった考慮すべき事柄の枠を超えて考えなければならない」とセンスター社マーケティング担当取締役キャシー・マクファー氏は語る。

映像監視は、おそらく現在最も一般的に使用されている監視技術だが、その一方で、防犯管理者や建物管理者は、カメラを補完する役割を果たす侵入阻止、侵

入を遅らせるなどの方法、評価方法を検討しているとマクファー氏は言う。現在、映像監視システムに加えて周辺防犯システムを導入し、完全なソリューションとすることに重点を置いている。

地域の景観を損なわないように、検知器を使用して敷地の周囲に仮想的な塀を設ける方法が考えられる。物理的な塀や壁を設置する必要はないと、エクスタリス社シンガポール地域営業マネージャのジョン・シナル氏は語る。「通常、敷地監視システムでは、周辺のフェンスラインを設けていて、1.5キロを超える場合もある。地形にもよるが、1つの技術だけに頼らないことを推奨する。動作検知器、受動赤外線センサなど多くの技術を組み込み、約60メートルのゾーンを設け、CCTVを併用すべきだ。これらの技術が一体となって、敷地の周囲に仮想塀が構築され、重要区域の監視が可能になる」。

可能であれば、ケーブルを使用して回線を構築し、システムが正しく作動していることを確認することだ。「ケーブルは、すべて終端抵抗器を使用して監視されており、誰かが回線に不正に手を加えたり、故障させたりした場合は、監視者に警報で知らせることができる。また、ケーブルを通じてリアルタイムで故障警報を送出し、通信障害の有無をテストすることができる」とシナル氏は言う。「問題が見つかった場合、予備回線に切り替えて動作させることにより、問題の調査を継続できる。システムの完全性を監視することによって、システムのダウンタイムを短縮することができる」。

博物館、史跡の周囲に適正な境界線を設けることにより、敷地内外の警備員の数を減らすことができる。「警備員には、侵入者を見つけるのではなく他の仕

事を与え、侵入があった場合に対応させるといのが一般的な手法だ」とシナール氏は言う。「侵入者があった場合、システムは音声警告を発し、現場を遠隔から照光し、警備員に侵入者の現在位置を知らせることができる。侵入者が抵抗すると思われる場合は、予備要員を現場に向かわせることになる。ただし、ほとんどの侵入者は、自分の場所を突き止められると逃げてしまうことが多い」。

敷地内の防犯

防犯カメラは、博物館の隅々まで撮影し、常に監視されているような感覚を来訪者に与えることなく、あらゆる異常行動に常に目を光らせなければならない。現在、博物館では、従来から馴染みのある製品として旧式のアナログカメラが最も広く使用されている。アナログカメラの画像品質は、ほとんどの博物館で概ね許容できるもので、カメラの見た目が大きな魅力になる場合もあるとラズタ氏と言う。一部の博物館では、従来から使用されているアナログカメラと新型ネットワークカメラの両方が音声システムや警報システムとに統合しており、来館者が近付き過ぎた場合に警告し、警備員に侵入者の可能性を通知する。

シナール氏によれば、まだアナログ市場が支配的であり、IPを活用した方式は5%に過ぎない。しかし、多くの博物館が、IPを活用した防犯システムに移行しつつあり、旧式のアナログカメラとエンコーダを使用している。

IP技術がもたらす利益の一つが、データを別の場所に容易に転送できることである。これにより、施設内での情報交換や警察、保険会社など第三者へのデータ転送が可能であると、マコシンスキー氏は言う。

例えば、英国の多くの博物館では、集中監視を専門家に外部委託している。「多くのシステムが警報受信センタに接続されている。警報受信センタは、検知器に対するいたずらや立入禁止区域での疑わしい動きを博物館の関係者に通知する」とバーウェル氏は語る。

予算の問題があるため、すべての博物館が、フルIPシステムにすぐに移行できるわけではない。「予算上一部の区域でしかネットワーク機器を使用できないため、当館ではIPへの移行を徐々に進めている。旧式の機器が機能しなくなった場合だけ交換する」とチィ氏は言う。ユーザの多くが、混成システムを使用する道を選ぶかもしれない。そうすれば、IPベースのシステムの新技術とソフトウェアを活用できるからだ」とシナール氏は言う。

メガピクセル技術や高解像度技術導入の最大の障壁は、データを効果的に送信するために必要な帯域幅である。「メガピクセルカメラが必要とする帯域幅は、通常のネットワークカメラの15倍にもなる。しかし、メガピクセルカメラか高解像度カメラが1台あれば、ネットワーク

カメラまたはアナログカメラ9台分の働きをすることができ、1つの画像内で複数のビデオストリームを表示することができる。さらに広い帯域幅が必要であっても、費用削減につながる可能性があることをユーザは実感すべきだ」とシナール氏は言う。

普及速度は遅いものの、ここ数年間、ネットワークカメラとシステムへの投資が進んでいる。「ネットワークカメラを導入したいという要望が増えている。博物館が、メガピクセル技術や高解像度技術に付加価値に気付いたからだ」とワエルデン氏は語る。

映像解析

映像解析は、博物館や史跡がこの技術の主要な顧客になりつつある現在、緩やかに導入されつつあるとバーウェル氏は言う。この技術は、来館者が近付き過ぎた場合や、いつもの場所から物が除去された場合、自動的に関係者に警報を発することができる。「複数のカメラからの情報を監視するという束縛から解放されたオペレータは、実際に発生したイベントにより積極的に対応することがで



トニー・マコシンスキー氏

ハネウエル・インターナショナル社セキュリティ・カスタムエレクトロニクス部門・英国&アイルランド地域マーケティング責任者



フィル・バーウェル氏

ADT Fire & Security、プロダクト・マーケティング・マネージャ



ダン・ラズタ氏
アクイティVCT社営業担当取締役



キャシー・マクファー氏
センスター社マーケティング担当取締役

きる。また、放置された物を検知し、操作担当者の注意を疑わしい物体に向けることができる」とマコシンスキー氏は言う。また、例えば150台のカメラを一度に見ることもできると、米国美術館バトラー研究所ケン・プラット施設部長は語る。

最近まで、展示品を保護するための無線警報は、ほとんどの場合、絵画の背後や展示ケースの中に隠されていた。「しかし、情報化映像の導入により、来館者は館内を自由に動き回ることができ、誰かが保護対象物に触ろうとしたり、動かそうとしたりした時にだけ、管制室のセキュリティ担当者や展示ギャラリーの警備員に警報を送ることができる」とラズタ氏は言う。「対象物を中心に保護ゾーンが設定され、警報も電子メールやテキストメッセージの形で送信することができる」。

誤報防止のため、設置や設定時には適切な注意を払わなければならない。「反射や影を無視するようにプログラムされていない場合、反射や影が発生した場合でも警報が作動することがある」とラズタ氏は言う。「こうした誤報をなくすため、博物館向けにプログラムされたソ

リューションもある」。

警報とRFID

どの博物館でも、朝とその日の終わりにグレーの時間帯がある。その間、警備員は報告を行い、請負業者の作業のほとんどがこの時間帯に発生し、ごく一部のスタッフしかその場にいない。博物館での事件の多くが、この時間帯に発生しているとラズタ氏は言う。「モニタに表示される監視対象物に関する警報のみが効果を発揮する」。

RFIDタグを使用して、展示物を効果的に追跡監視することができる。「展示ケースの底の部分にタグを付け、人目につかないシステムを構築することができる」とISIS社専務ロブ・グリーン氏は語る。「例えば、王立ハンプトン・コート・パレスでは、RF読取機を天井に隠して設置し、その下にある芸術品のタグを読み取っている。様々なアンテナを使用することにより、全区域で無線通信が可能になった」。

あらゆる物を追跡できるため、学芸員は、より良い展示レイアウトを設計することができる。「ソフトウェアを使用してタグデータの総合的な分析を行い、展示品への接触の頻度を知ることができる。つまり、芸術品を個別に監視できるので、学芸員は最も良い展示レイアウトを設計することができる」とグリーン氏は語る。

無線モレのない優れた通信エリアを構築するため、どの区域でも、最低2台の読取機を設置すべきだとも同氏は言う。「2台設置して冗長性を確保しておけば、読取機が故障した場合や1台に通信妨害



来館者には、常に監視されているような感覚を与えることなく、楽しんで見学してもらわなければならない。

が発生した場合でも対応できる」。

無線通信

無線通信は信頼性が高い。多くの施設ではすでにケーブルが敷設されているが、史跡や建造物の多くは改造の余地が限られているので、無線を使用するソリューションが増えている。「施設の保存面での問題に加えて、床を上げたり、天井を低くしたりするのはコストがかかるため、無線化すればコスト面でも有利である。一般論として、できればケーブルの長さは最小限に抑えたい」とバーウェル氏は語る。

また、サンデル氏は、最新の無線技術を利用して電話回線が切断されることを防ぎ、システムの機能が停止してしまう事態を防止すべきだと助言している。

無線技術を使用するもう1つの利点は、防犯区域を一時的な追加や除去ができることだ。「ケーブルを敷設する必要がなく、迅速で効果的、高効率作業が可能だ」とワン氏は言う。

大型の複合施設でも、無線システムの利益を享受することができる。「施設がどのくらい遠方にあるか、設置費用や基盤整備がどの程度なされているか、これらすべてで無線が最適であるかどうかの判断要素となる。施設によっては、映像送信が円滑にできれば、多額の出費も無駄にならない」とバーウェル氏は言う。

遺産とその保護

博物館はそれぞれが異なる存在で、所蔵品の性質を考慮しなければならない。例えば、中国の芸術品は主に巻物や薄紙、青銅などでできており、温度調節が可能な環境で保存しなければならない。また、小さな翡翠の装飾品などは壊れやすく、ガラスケースの中で保存しな



温度調節機能付きケースにより、展示物が保護・保全されている。

ればならない。「展示ケースは、防犯と保存という2つの役割を果たす。当館では、防弾、耐火、耐爆仕様のガラスを使用している」とチィ氏は言う。

史跡における最も大きな課題の1つが資源配分だ。「すべてのシステムを博物館の日常運営に統合する一方で、適切な手順とプロセスが整備されていることを確認しておかなければならない。防犯製品、防犯規則が1つだけでは不十分だ」とバーウェル氏は言う。

防犯に関する多くの決定が、こうした

問題への対応の訓練を十分に受けていない博物館長や学芸員によってなされている。「訓練を受け、この分野で十分な経験を積んだ防犯コンサルタントや防犯責任者を雇用するのが最善の策だ」とヒル氏は言う。適切に導入され、保守が行き届き、十分な監査を受けた高品質のシステムであれば、伝統的な建造物、遺産、さらには、世界中の多くの値段の付けられない芸術品の保護に十分な役割を果たすことができる。

ANS

従来の電子セキュリティを検証する

かけがえのない美術品を十全に守るためには、単に芸術作品向けのセキュリティシステムを設置しているだけでは不十分だ。美術館は、緊急事態やセキュリティシステムの侵害に備えて、起こりうるあらゆる事態を考慮し、理論的かつ効率的なセキュリティ・プロトコルを導入する必要がある。

a&s International



美術館や歴史的遺跡では、起こりうるあらゆるリスクに注意しなければならない。「主要な美術館では、セキュリティ管理者が、セキュリティシステムの効果を検証するために、定期的にリスク評価を行っている」と、チャブ保険グループ社シェイ

ラ・パーマー副社長補佐は語る。「リスク評価は、年に1回恒例で行われたり、陳列物に関して重要な変化が生じたりした場合に行われる。例えば、新しく高い価値があり物議をかもしような展示物を導入したり、近隣や建物の外部の展示物に変化があったり、建設や修復があったりした場合だ」。

輸送中のリスク

美術館に展示されている多くのコレクションは借りものである。というのは、美術館は、世界中にコレクションを展示するために、しばしば、互いに協力しているからだ。協力関係にある美術館にコレクションが展示される期間中に、それらが安全であることを確認するためには、適切な手続きが必要だ。「私たちは、いつも、展示会が行われる施設、セキュリティシステムのタイプ、主催者の評判などをチェックしている」と、米国美術館バトラー研究所の施設部長ケン・プラット氏は述べている。

「環境の制御と緊急時の対応については、展示区域を巡回する警備員が何名かといったことに至るまで、完璧に検討し、理解しなければならない」。また、美術品は、輸送中にもっとも攻撃されやすい。「美術品が紛失したり、傷ついた

“ 協力関係にある美術館にコレクションが展示される期間中に、それらが安全であることを確認するためには、適切な手続きが必要だ。

”

りするのは、ほとんどが輸送されている時だ」と、ハンチングトンTブロック保険会社リンダ・サンデル上級副社長は語る。「2つの主要な防御手段がある。一つは、輸送中の衝撃や振動を最小化するために、展示物のサイズや気象条件、壊れやすさなどを十分考慮し、展示物を適切な素材と方法によって梱包し輸送することだ。もう一つは、展示物の積み込みや荷下ろしの際にも、セキュリティを維持することだ」。

美術品の輸送を専門に行っているサードパーティの業者は、すべての美術品を梱包し輸送することを要求される。「美術館は、通常、輸送業者と長期間継続した関係を持っている。そして、輸送業者が美術館の要求を理解できるように、輸送業者とともに非常に近いところで働いている。美術館側の要求には、特定の作品のための梱包の素材についての詳細な情報なども含まれる」とパルマー氏は述べる。「美術館は、それぞれの輸送案件について、個別の要求をしなければならない。なぜなら、美術館のレベルの輸送案件になると、標準的な雛型のようなものは存在しないからだ。すべての美術品は、人目につかない自動車で運ぶ必要がある、その車には警報器やエアショックを装備し、2名の運転手が乗らなければならない」。

米国では、輸送を担当することになるすべての人物の身元確認に、特別の注意を払う。「すべての従業員は、国家国土保安省より認証を受けなければならない。これにより、輸送会社のすべての従

業員が、最低限の予備的なセキュリティチェックを経験することが可能になる」とパーマー氏は述べる。

さらに、1人の美術館の職員が、コレクションに往復同行する。「コレクションを所有する美術館職員が、コレクションに付き添っていない限り、私たちは、決してコレクションから離れることはない。以前コレクションを運んでいた時に、トラックの1台が故障したことがある。その時私は、修理店で一晩中トラックの中にいた」とプラット氏は述懐する。

効率的な警備

2010年には、注目に値する2件の美術品盗難事件があった。1件はパリで、そしてもう1件はエジプトで起こった。「この2つの美術館は、最先端の設備を誇っており、精巧かつ高価なセキュリティシステムを導入していた。しかし、それらのシステムは機能しなかった」と美術品危機管理コンサルタントのチャールズ・ヒル氏は説明する。「この事件は、機械の故障ではなく、欠陥のある管理原則が原因だった。事件発生により、この2つの美術館は、評判が悪くなってしまった。美術館の評判がいったん悪くなると、他の美術館からの巡業の展示を行うことは困難になってしまう。欠陥のある管理原則のもう一つの例は、1994年にオスロのナショナル・ギャラリーで起きたムンクの作品の盗難だ」。

盗難は早朝に発生した。警備員は、犯人が絵画を持って逃げていくのを制御室

から見ていたにもかかわらず、通常の手続きに基づいて館長に電話をした。「犯人を捕まえることができなかったのは、単純にセキュリティの手続きが不適切だったためだ」。

最も効果的なセキュリティシステムは、よく訓練された警備員やガイドとともに、最先端の電子監視設備を活用することだとサンデル氏は語っている。セキュリティシステムのみにも頼っていても、貴重な美術品を収蔵している美術館に必要な防御体制を提供することはできない。「むしろ、人間の方に重きを置くべきだ。そうすれば、必ずバランスが取れるはずだ」とヒル氏は述べている。「管理体制が悪ければ、何事もうまくいくはずがない。だから、セキュリティシステムに重点を置きすぎるのではなく、システムを制御し、設備を巡回する人々の方に、より重きを置くべきだ」。

ごく少数の美術館では、警備会社から警備員を雇い、そのすべての雇用された警備員は、広範な身元調査を受けている。「当方は独自に身元調査を行い、警備員を雇い入れるべきである」と、台湾故宮博物院登録・保存部門ジョー・シン・チ主任は語る。「故宮博物院の警



ケン・プラット 氏
米国美術館/バトラー研究所
施設部長

備員は全員、美術品警護分野の広範なトレーニングを受け、数十年にわたって雇用されている。私たちは、警備員が確実に信頼できる人物であることを確認する必要がある。というのは、セキュリティシステムは、単独では、博物院のすべてのコーナーを警備するために十分とはいえないからだ。さらに、当方では、より注意深くあるために、陳列物や保管ケース、保管室などの鍵を警備員に持たせていない」。

複数の調査によれば、ほとんどの窃盗は、美術館内部の者によって実行されている。「職員や下請業者は、美術館のレイアウトやセキュリティシステムの抜け道を知っている。アメリカのFBIの調査によれば、美術館の盗難事件の87%は内部犯行だと指摘している。つまり、セキュリティは、外部に対するのと同様かそれ以上に、美術館内部からの窃盗に対して厳重でなければならない」とヒル氏は指摘している。

このような理由から、美術館が、最近、職員を追跡するためにRFIDカードを導入し始めた。「このシステムにより、特定の職員が今までどこにいて現在どこにいるか、いつでも正確に記録することができる」とシナール氏は説明する。

美術館の適切な手続きに基づいていれば、想定内のいかなるリスクも回避できる。例えば、しっかりしたセキュリティ手段により、故宮博物院では人々の保管室への入退を制限することができる。「保管室は、火事などの緊急事態でない限り営業中に扉が開くことはない。幸いにもこれまでに緊急事態が起こったことはない。営業時間以外に扉を開けるには、保管室を開ける権限のある3名の担当者が、全員合意の上、保管室とともに入室しなければならない。RFIDカード

を使用し、また、カメラを設置して、保管室へのすべての入退出者を記録している」と、チィ氏は述べている。

将来に向けて

最新技術を導入しても、リスク評価を行わない限りは、必ずしも完全なセキュリティシステムを構築できたわけではない。しかし、最新技術により、美術館は長い目で見てセキュリティコストを下げることができ、付加的なセキュリティプログラムを利用することが可能になるとパーマー氏は語る。

しかし、多くの美術館が必要要件に合っていない新技術を市場から見つけ出す。「当方は、生体認証が100%信頼できるとは考えていない。生体認証を導入すると、緊急時にスタッフが特定区域に入れなくなるかもしれないという虞がある。当方ではRFIDタグを導入していないが、それは脆弱な紙製の巻物や小さな展示物には、タグを付けることができないからだ」とチィ氏は説明する。

最近のセキュリティ分野の最大の技術革新はデータ重視の傾向で、特に解析技術に集中している。これは、予測できる解析により、イベント発生前にそれを予測する機能を提供することを指す。「例えば、同一人物が週に10回、美術館に入りしていたら、その人物は、展示物を調査し犯罪を計画していると看做すことができる。窃盗犯の行動は、通常の閲覧者とはだいぶ異なっている」とシナール



自画像と同様の印象派の手法で描かれたヴァン・ゴッホの「ケシの花」は、2010年白昼、盗難に遭った。

氏は語る。

美術館や歴史旧跡の安全を最高位に保つには、セキュリティシステムや職員の身元確認、最適な手続きなどのすべての要素を徹底的に実行しなければならない。「美術館は、セキュリティのための努力を柔軟性の向上に振り向けるべきだ。つまり、予知できることに備えるだけでなく、予知できないことにも備えなければならない。洪水のような天災から、騒ぎに乗じた窃盗に至るまで、あらゆることを想定する必要がある」とヒル氏は語る。

セキュリティのある一面だけが他よりも重要であることは決してない。時には、常識と適切な管理手続きを技術と組み合わせる方が先進セキュリティシステムを単独で設置するよりも効果的なこともある。



特別企画

SECURITY SHOW 2011

注目のセキュリティ機器

SHOW

特別企画 第19回 セキュリティ・安全管理総合展 SECURITY SHOW 2011 出展社情報

会社名	小間番号	電話番号	URL	取り扱い製品						
				映像関係						指紋
				カメラ	レンズ	モニタ	レコーダ	映像管理ソフトウェア	映像解析ソフトウェア	
国内										
アースシフト	SS3608	054-278-8309	www.cybereyes.jp	●				●	●	
アイホン	SS3322	052-682-3877	www.aiphone.co.jp	●		●	●			
アспект・システム	SS3621	0422-76-7312	aspect-sys.co.jp	●			●			
アドソル日進	SS3507	03-5796-3139	www.adniss.jp	●						
アドバンスセキュリティー	SS3503	03-5304-1261	www.adsec.jp	●	●	●	●	●	●	
アペックス	SS3622	03-3478-3536	www.appex.co.jp					●		
岩田エレクトリック	SS3313	03-5830-7811	www.iwata-elec.com	●						
エヴァーフォーカスジャパン	SS3233	"03-5625-8188	www.everfocus.co.jp	●	●	●	●	●		
エスアイエス	SS3204	03-6381-2965	www.sis-info.jp							
NEC	SS3512	03-3798-8667	www.nec.co.jp	●						●
NECマグナスコミュニケーションズ	SS3512	03-3798-7963	www.necmagnus.com							
NSS	SS3514	092-504-7370	www.cpcam.jp	●	●	●	●	●	●	
エム・エー・ジェー	SS3205	03-3548-8280	www.m-a-j.co.jp					●		
カウベルエンジニアリング	SS3616	0267-67-1511	www.cowbell.co.jp							
加藤電機	SS3404	0569-26-0088	www.kato-denki.com	●			●			
兼松日産農林	SS3201	03-3265-8270	www.knn.co.jp	●	●	●	●	●		
キャトルプラン	SS3609	03-5302-1417	www.quatre-plan.co.jp	●			●		●	
キヤノンマーケティングジャパン	SS3612	050-555-90074	canon.jp	●				●		
協和テクノロジズ	SS3213	06-6363-8833	www.kyotec.co.jp	●	●	●	●	●	●	●
近計システム	SS3337	03-3803-4173	www.kinkei.co.jp							
クマヒラ	SS3401	03-3270-4388	www.kumahira.co.jp	●			●			
クリテム	SS3229	03-3983-3651	www.cretem.co.jp	●	●	●	●	●	●	
計電産業	SS3301	03-3945-0069	www.keiden-jp.com							
ケービデバイス	SS3102	075-354-3372	www.kbdevice.com	●	●	●	●	●		
ゲネシス コンマース	SS3223	03-3287-7339	www.gcs-tokyo.co.jp						●	
サン・ライブス	SS3229	072-766-5106	www.sunlives.co.jp				●	●		
サンコースプリング	SS3605	045-543-7702	www.sunco-spring.co.jp							
サンステーションシステムズ	SS3222	045-320-5821	sss-inc.biz							
シーピーユー	SS3131	076-280-8001	www.cpu-net.co.jp/ securetech/	●		●	●	●		
シーベル	SS3129	03-5697-8322	www.c-bel.co.jp							
ジェイ・アイ・エム	SS3329	03-5212-6001	www.jim.co.jp							
清水システムサブライ	SS3330	026-224-1221	www.ssystem.co.jp							●
ジャパン・イメージ&ネットワーク	SS3213	06-6363-8844	www.jini.co.jp	●			●	●		
ジョブル	SS3216	044-244-3281	www.joble.co.jp	●	●	●	●	●		
スペース	SS3603	0422-31-8110	www.spacecom.co.jp		●					
スマット	SS3225	011-824-7808	www.smat.jp	●						
セキュリコ	SS3224	03-3504-8531	www.securico.co.jp							
セキュリティゲート・ジャパン	SS3314	03-5437-1131	www.sg-japan.com							

会社名	小間番号	電話番号	URL	取り扱い製品						
				映像関係						指紋
				カメラ	レンズ	モニタ	レコーダ	映像管理ソフトウェア	映像解析ソフトウェア	
セキュリティハウス・センター	SS3206	075-584-6600	www.securityhouse.net	●	●	●	●			●
セルコ	SS3327	075-501-0070	www.selco.ne.jp	●	●	●	●	●		
創朋	SS3318	03-5812-2151	www.soho-jp.com	●	●	●	●	●	●	
DYNACOLOR	SS3323	03-5524-6655	www.dynacolor.co.jp	●			●	●		
ダイワインダストリ	SS3309	03-3755-6840	www.daiwa-industry.co.jp	●	●	●	●			
タキゲン製造	SS3202	03-3492-2001	www.takigen.co.jp							●
ダブリュー・ビィ・ジャパン	SS3220	03-5759-5668	www.wb-japan.co.jp	●			●			
店舗プランニング	SS3509	03-3378-4901	www.tenpo.co.jp	●	●	●	●	●		
東京エレクトロンデバイス	SS3611	045-443-4031	www.inrevium.jp							
トキナー	SS3122	03-5982-3091	www.tokina.co.jp	●	●					
七星科学研究所	SS3211	042-969-1818	www.nnbs-develop.com							
日商エレクトロニクス	SS3411	03-3544-8324	www.nissho-ele.co.jp							
日東光学	SS3617	0266-57-3213	www.nittohkogaku.co.jp			●				
日本工業出版	SS3419	03-3944-1181	www.nikko-pb.co.jp							
日本信号	SS3121	03-3217-7185	www.signal.co.jp							
日本テクノ・ラボ	SS3219	03-5276-2811	www.ntl.co.jp					●		
日本防犯システム	SS3610	03-5820-0078	www.js-sys.com	●	●	●	●			
日本防犯設備協会	SS3624	03-3431-7301	www.ssaj.or.jp							
ハイテックインター	SS3619	03-3254-5383	www.hytec.co.jp	●						
パナソニックグループ	SS3128	03-5148-5635	panasonic.biz	●	●	●	●			
パル技研	SS3613	087-864-3388	www.palgiken.co.jp							
ピー・シー	SS3603	03-3760-8700	www.pacific-japan.com	●	●		●			
PIVOT3	SS3215	03-5532-7315	www.nscdnet.com/products/pivot3				●	●	●	
フリーアシステムズジャパン	SS3618	03-6277-5681	www.flir.com	●	●			●	●	
古河産業	SS3508	03-5405-6355	www.furusan.co.jp	●			●			
朋栄	SS3230	03-3446-3121	www.for-a.co.jp			●	●			
まいにち	SS3620	072-438-7358	www.my21.jp/index.html							
マザーツール	SS3402	0268-25-2332	www.mothersool.co.jp	●	●	●	●			
ミカミ	SS3346	045-914-8222	www.kk-mikami.co.jp	●	●					
三井物産エアロスペース	SS3321	03-3437-8975	www.mba-security.com	●				●	●	
美和ロック	SS3203	03-4330-3069	www.miwa-lock.co.jp							
モスウェル	SS3101	045-290-7150	www.moswell.co.jp	●	●	●	●			
ユーピーアール	SS3505	03-3435-9150	www.upr-net.co.jp							
ユニモテクノロジー	SS3325	03-3837-6744	www.unimo.co.jp	●	●	●	●	●		
ヨネイ	SS3232	03-3564-8785	www.yonei.co.jp							
ロックマンジャパン	SS3310	03-6712-9601	www.lockman.co.jp							

生体認証						入退管理			検知機器	電子機器				伝送機器				防犯道具			防災関連機器					情報	その他	
掌形	顔貌	目・虹彩	声紋	静脈	認証用ソフトウェア	ICカード・タグ	セキュリティゲート	共連れ検知	EAS万引防止システム	センサシステム・センサ	電源装置	雷害対策機器	警報機器	位置情報システム	無線機・通信機器	緊急通報機器	遠隔伝送機器	ネットワークシステム	錠・金庫	セーフティ製品	護身具	非常用・防火用設備機器	消火設備機器	防災機器	避難器具	防震・免震機器	ITセキュリティ	
		●		●		●	●		●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●							
																	●											
																	●	●										
						●				●				●				●									●	●
														●													●	●
															●												●	●
																											●	●
															●												●	●
																											●	●
																											●	●
																											●	●
																											●	●
						●	●			●																	●	●
														●													●	●
															●												●	●
																											●	●

タムロン、新事業製品を発表

魚眼レンズ搭載 全方位カメラ

2010年4月に開発を発表した「魚眼レンズ搭載 全方位カメラ」、今春開催されるセキュリティーショー2011タムロンブースにて参考出品される。

本製品の開発背景として、従来の監視カメラでは死角ができてしまい、全方位をカバーするためには複数のカメラを使用せざるを得なかった。また、スピードドームカメラを使用しても、瞬時に監視対象を捉えられないといった課題があった。今回開発した全方位カメラは、水平画角180度の魚眼レンズを採用し、カメラ1台で死角のない画像を得ることができる。捉えた画像は独自の画像処理技術を用いてゆがみを補正することができるほか、電子PTZ、プリセット機能、動体検知など多彩な機能を搭載し、的確に撮影対象を捉える。またレンズからカメラ、ソフト制御までの一体型設計により機構部がないため、メンテナンスにかかる負担を軽減できる高耐久・高信頼性を実現している。従来のカメラに比べ小型軽量化を図り、外観デザインにも配慮したインテリジェントカメラとして様々な環境での設置が期待される。

遠赤外線カメラおよびレンズ

遠赤外線カメラは、近年多発したパンデミック（大規模感染）対策用

のスクリーニング機器として脚光をあび、様々な用途で使用されるようになった。赤外線センサは熱を検知することが可能で、無照明下の夜間や監視をささげる霧などの影響が最小限となり、可視カメラでは映像化されない物体・現象を画像にすることができる。

このような特徴から遠赤外線カメラは様々な用途での使用が検討されているが、タムロンでは今回、セキュリティ市場に向けた遠赤外線カメラおよびレンズを開発。

市場の要求に応えるため遠赤外線カメラ市場でもトップレベルの技術を搭載し、市場参入を図る。主な特徴は以下の通り

1) 高感度遠赤外線センサの搭載と多彩な画像処理

遠赤が線技術、画像処理技術により、さらに高画質な監視画像を提供。高感度化、表示最適化、エッジ強調、S/N改善を実現している。

2) 世界初*となる遠赤外線カメラ初の光学式防振機構VCを全レンズに搭載

特に屋外での設置においては、風

や地面の振動などの影響を受け、画像の劣化を招いています。これを改善するために、遠赤外線カメラとしては初となる光学式防振機構VC (Vibration Compensation)を全レンズに搭載

*2011年1月末 株式会社タムロン調べ

3) 遠赤外波長域に最適化された光学式3倍ズームを搭載

中距離監視用と遠距離監視用に最適な焦点距離をカバーするズームレンズを開発。光学式3倍ズームにより、設置時の画角設定が容易に行え、各焦点距離で高画質な画像を得られる。

4) レンズ交換方式の採用

様々な監視状況にフレキシブルに対応するため、単焦点レンズ4機種、ズームレンズ2機種を開発。用途に合わせたレンズ交換でシステムを容易に組み替えて、設置の利便性向上、納入のスピード化、在庫負担の軽減を図る。

5) 屋外設置時の防塵・防滴対応

レンズにあわせた2種類のハウジングを用意。専用ハウジングとの組み合わせでIP66に対応。

株式会社タムロン

〒337-8556 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地

TEL : 048-684-9424 FAX : 048-683-8594 MAIL : newbiz@tamron.co.jp URL : www.tamron.co.jp

小間番号

遠赤外線高感度カメラと 高機能レンズ群

主な仕様

- ・遠赤外線高感度センサを搭載して高感度化
- ・高温／低音が混在した画像でも表示つぶれしないよう表示を最適化
- ・監視被写体を抽出しやすいよう輪郭を強調するエッジ強調
- ・デジタル的にノイズを低減したS/N改善
- ・遠赤外線カメラ初の光学式防振機構VCを全レンズに搭載
- ・遠赤外波長域に最適化された光学式3倍ズーム搭載
- ・単焦点レンズ4機種、ズームレンズ2機種で様々な状況に対応
- ・IP66対応の2種類のハウジングを用意



株式会社タムロン

〒: 337-8556
TEL: 048-684-9424
MAIL: newbiz@tamron.co.jp

住所: 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地
FAX: 048-683-8594
URL: www.tamron.co.jp

SS-3513

製品概要

セキュリティ市場のリーディング企業で総合光学機器メーカーのタムロンは、セキュリティ向け遠赤外線高感度カメラおよび高機能レンズ6機種を開発した。世界初光学防振機構VC搭載、光学3倍ズーム、マウント交換方式を採用。

小間番号

魚眼レンズ搭載 全方位カメラ

主な仕様

- カメラ: 撮像素子1/3.8CMOSセンサ。
有効画素数130万画素。プログレッシブ走査。
- レンズ: 魚眼レンズ。水平画角180度。F/1.7。
最低被写体照度2Lux
- その他機能: ディストーション補正。
9プリセット及びシーケンス。動体検知。



株式会社タムロン

〒: 337-8556
TEL: 048-684-9424
MAIL: newbiz@tamron.co.jp

住所: 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地
FAX: 048-683-8594
URL: www.tamron.co.jp

SS-3513

製品概要

魚眼レンズ搭載により全方位で死角のない画像を確保。歪み補正、電子PTZなどの画像処理機能を搭載。小型軽量で設置場所を選ばず、機構部はメカ的な部分が少なく高耐久・高信頼性を有する。

小間番号

SS-3345

製品概要

「EXR6004 Mini」は、コストパフォーマンスに優れた、小・中規模の企業・店舗への設置に最適なIPカメラ専用4ch NVR。また、PCレス（本体からのモニタ出力が可能）で監視環境の構築も可能。わかりやすいインターフェイスで、簡単操作も。

コンパクトでパワフルなスタンドアロン
4ch NVR

AVerDiGi EXR6004 Mini

主な仕様

- A4サイズよりもひと回りコンパクトなIPカメラ専用4ch NVR
- 本体からモニタ出力可能。PCレスで質の高い監視環境の構築を
- メガピクセルIPカメラ対応（最後のchは最大5メガまで対応）
- HDDの増設も簡単（オプションの本体同サイズHDDボックスで）
- より安定的な運用を実現する、デュアルLANポート搭載
- 世界主要メーカーのIPカメラに対応
- わかりやすいメニュー画面で直感的操作が可能
- iPhone / Androidスマートフォン / PC（ブラウザ）等から遠隔監視も



アバーメディア・インフォメーション株式会社

〒：102-0074
AVerMedia TEL：03-3222-7380
MAIL：info@aver.co.jp

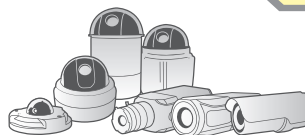
住所：東京都千代田区九段南4-3-13 麹町秀永ビル5階
FAX：03-3222-7381
URL：www.aver.co.jp

• Full HD real-time image captured
 • Best-in-class up to **20x** optical zoom module
 • Groundbreaking **multi-megapixel** dual streams

Full HD Speed Dome IP Camera, amplified IP surveillance experience

network DynaHawk™ 820e / 720e Series
Full HD Speed Dome IP Camera

- Sony プログレッシブCMOS
- 最大20倍光学ズームAFレンズ搭載
- デュアルストリーム：フルHD 1080Pリアルタイム+D1リアルタイム
- リアルタイムWDR
- DNR 2D/3Dデジタルノイズリダクション
- 全天候型IP66防塵防水ハウジング（屋外型）
- ハイパワー PoE
- Milestone互換 ONVIF



▶ 36倍 D1 IP PTZより
フレームごとにピクセル6倍

SECURITY SHOW 2011
#SS3323

secutech 2011
#K112-K119

DYNACOLOR
always watching

DYNACOLOR JAPAN(株)

電話番号 03-5524-6655
FAX 番号 03-5524-6656

http://www.dynacolor.co.jp
Email: info@dynacolor.co.jp

指静脈入退管理システム SecuaVeinAttestor[®] AFV-730シリーズ



製品概要

本製品は指静脈認証により、入退管理を行うシステムです。この製品は1つのドアに設置してスタンドアロンでの入退管理を実現できるほか、ネットワークを介してサーバと複数の本製品を接続し、複数ドアで最大5万人の入退管理をする大規模システムまで適用できます。

特長

本システムの指静脈認証端末(写真)は、指静脈スキャナほか、ICカードリーダ装置とID番号などを入力するテンキーをコンパクトに搭載しています。このため指静脈で認証する方法だけでなく、指静脈とICカード、ID番号、PINの組合せにより、計7種類の認証方式から選択でき、ICカードはFeliCaとMIFAREをサポートしています。また、本製品は、既設カードシステムとの接続を容易にするためのインターフェイスとしてシリアルインターフェイスとWiegandインターフェイスを有し、柔軟かつ高セキュリティな入退管理システムを構築できます。AFV-730シリーズは、指静脈認証端末(AFV-730-TC)、カードリーダ端末(ACR-730-T)、I/Oボックス(AIO-730)、登録用スキャナ(FVN600E)、ID管理サーバソフトウェア(AMS-700)により構成しております。

SecuaVeinAttestorは、株式会社日立情報制御ソリューションズの登録商標です。

主な仕様

- 指静脈照合精度：
他人受入率 0.0001%、
本人拒否率 0.01%*1
- 認証時間：0.8秒(指静脈認証から解錠まで)*2
- 登録数：カードユーザー
50,000ID、カードを使用しないユーザー6,000ID(格納指数12,000)
- サポートICカード：FeliCa、MIFARE (ISO14443 TypeA準拠)
- ICカード内登録指数：
2指(FeliCaのみ)
- 環境条件：0~40℃、20~80%RH、室内、水がかからないこと。直射日光が当たらないこと。
- 最大扉数：256扉
- 電源/消費電力：AC100V±5%/75W
- *1 弊社の独自方法による精度値です。
- *2 1：1認証の場合

本製品を輸出等される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きお取り下さい。
なお、不明な場合は当社担当営業にお問合せ下さい。

HITACHI
Inspire the Next

株式会社日立情報制御ソリューションズ

〒：108-0075
TEL：03-5769-7105
URL：www.hitachi-ics.co.jp

住所：東京都港区港南二丁目5-3オリックス品川ビル6階
FAX：03-5769-7224
MAIL：Hideki.kurosawa.eb@hitachi-ics.co.jp

第19回 セキュリティ・安全管理総合展

SECURITY SHOW 2011

3月8日(火)～11日(金)

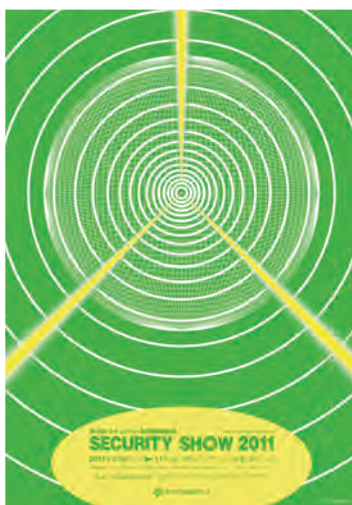
東京ビッグサイト 東ホール

10:00～17:00 (最終日のみ16:30終了)

主催：日本経済新聞社

www.securityshow.jp

Webサイトの事前登録で入場無料 (3月7日まで)
出展社への質問や相談をWebサイトで受付中!



オフィス、店舗、公共施設、住宅をはじめ、街や社会の「安全・安心」を実現する
映像監視や入退管理、侵入検知などの製品・サービスを一挙紹介

お問い合わせ

NTTハローダイヤル 03-5777-8600(ご案内は3月まで)

入場料

当日一般=1,500円
当日団体<20名以上>=1,000円(税込み)

後援

警察庁、(独)情報処理推進機構、日本商工会議所、全国商工会連合会、
(財)店舗システム協会、米国大使館商務部 (順不同)

協力

テレビ東京、日経BP社 (順不同)

協賛

(社)日本防犯設備協会、(財)全国防犯協会連合会、
(社)全国警備業協会、(社)全国建設業協会、日本EAS機器協議会、
(社)日本設備設計事務所協会、(社)日本シャッター・ドア協会、
日本ロック工業会、(社)日本サッシ協会、板硝子協会、
日本ウインドウ・フィルム工業会、(公財)日本盲導犬協会、
(社)日本ファシリティマネジメント推進協会、(財)日本情報処理開発協会、
(社)日本自動認識システム協会 (順不同)



SECURITY SHOWの
最新情報が手元に!
「日経の展示会」iPhoneアプリ
2011年2月リリース(予定)

同時開催展

JAPAN SHOP / 建築・建材展 / リテールテックJAPAN / IC CARD WORLD / ライティング・フェア / フランチャイズ・ショー

アジア：価値ある成長市場に注目！

アジア各国の購買力は、欧米市場が停滞する中での世界経済を牽引しています。地理的にも恵まれた条件を有するアジア企業は、セキュリティ市場の確かな未来をしっかりと捉えています。今なお発展を続けるアジア市場で成長の機会を創出するために、A&S Asiaを活用しましょう！



A&S Asiaは16,000名の読者に最新の製品や技術、アプリケーション情報を掲載する地域随一のセキュリティ誌です

創刊：1998年

発行形態：隔月刊

発行部数：16,000部

企業ユーザーや開発者、施工業者やシステム構築者、コンサルタントの方々に役立てていただけるよう、本誌はアジア市場の開発志向の視点で、購買層を急速に拡大しています。価値あるアジアの購買層に向けて、貴社の実力を最大限に発揮しましょう。

発行年間購読料金：6000円

お問い合わせ：

ASJ社 (Advanced Security Journal Corp.)

〒101-0041

東京都千代田区神田須田町1-7-1 ウィン神田ビル10階

TEL: 03-6206-0448

FAX: 03-6206-0452

E-mail: info@asj-corp.jp

マルチモーダル生体認証

＜未対応者を無くし、安定的な運用を行う＞

ウィッツェル株式会社 茶位利昭

はじめに

指紋認証を導入したが、うまく照合ができたりできなかったりと不安定で使えないという話をたまに聞く。もっともこれは指紋認証だけでなく、生体認証一般に当てはまることだ。生体認証はその名の通り、利用者の生体をスキャンして照合するので、計測環境はもちろん、利用者の状態によっても計測結果が異なってしまう。その異なり方は、利用者によって違い、そのため利用者によっては生体認証システムとの相性も発生する。ちなみに行動的特徴を利用した生体認証においても同様に、取得環境や人の状態によって計測値が異なる場合がある。このように、生体認証システムとの相性により、そのシステムを全く利用できない人がいる。この人を当該生体認証システムの未対応者と呼ぶ。

この、未対応者(またはその予備軍)が存在する生体認証システムを単一で使用することは最初から問題がある。特に企業で全社員に単一で同一の生体認証を展開することは、未対応者の問題をずっと後まで残すことになる。そこで、この

ような場合でもマルチモーダル生体認証を利用することで実用的な運用が可能なることを説明する。

マルチモーダル生体認証の運用方法

ここでは分かりやすく説明するため、指紋認証を利用していたがうまく行かない場合(うまく利用できない人)にサイン認証を追加導入して、2つの生体認証システムとして運用する例を示す。

まず、マルチモーダル生体認証には、表1の様にいくつかの運用方法がある。

運用方法を詳しく記す。

1. AND方式

この方式には2つの考え方がある。高セキュリティを狙った場合と、より実用的に利用する場合の考え方だ。

①高セキュリティを望む場合

両方の認証に成功した場合のみ本人と認める方法である。通常通り両方の認証に成功した場合のみ本人と認める。完全に2つの生体認証により判断するので、高セキュリティを望める。

②実用性重視の場合

両方の閾値をある程度低くして運用する方法。閾(しきい)値を低くするので、FRRは下がる。特に本人の認証結果が閾値に近い位置であり、うまく行く場合と行かない場合を繰り返していた場合には照合率が上がる可能性が高い。しかし、他人が真似しようとした場合、複数の虚偽情報を用意する必要があるので、単一生体認証よりも偽装できない可能性が高くなることが期待できる。このためFARが上がる可能性は少ないと考える。

2. OR方式

どちらかの認証に成功したら本人とする運用方法。単一の生体認証の場合、その認証システムに対して未対応者だった場合には、システムの利用ができないことになるが、この方法であれば、どちらかの生体認証に成功すれば良いので、未対応によるシステムの利用不可能者はなくなるか、あるいは大幅に減少すると考えられる。

3. AND-OR方式

AND方式とOR方式の統合型。閾値を通常と低めの2段階用意する。通常の閾値でどちらかの生体認証に成功すれば本人と認める(OR方式)、それに加えて、低めの閾値で両方の認証に成功すれば本人と認める(AND方式)ことにする。ただし、低めの閾値の場合はどちらか一方の生体認証が成功しただけで

運用方式	概要
1. AND	両方の生体認証が共に成功した場合のみ本人と認める
2. OR	どちらか片方の生体認証が成功したら本人と認める。
3. AND-OR	2段階の閾値を設け、2つの生体認証の認証結果状況で本人と認める。

表1 マルチモーダル生体認証の運用方法

		指紋（最初の認証）		
		NG	低めOK	通常OK
最初の認証での判断		?	?	◎
サイン（次の認証） 	NG	×	×	
	低めOK	×	○	
	通常OK	○	○	

表2 2段階OR方式の認証結果

は本人とは認めない。

マルチモーダル生体認証の導入

今回の例では、3番目のAND-OR方式を利用する。運用方法としては、2つの生体認証があるので、最初に指紋認証を行って次にサイン認証を行うことにする。この場合の認証の成否を表2に示す。表中、最初の指紋認証で通常OKの場合を示す「◎」は次のサイン認証を行わないで認証成功とし、最初の認証で判断できない場合を示す「？」のみ、次のサイン認証を行うこととする。また表中の「○」は認証成功、「×」は認証失敗を示す。

表2の認証結果「NG」、「低めOK」、「通常OK」は、それぞれ図1に示すように、NGとは、閾値2（セキュリティレベルが低めの閾値）よりも距離値が遠い部分を指し、同じく通常OKとは、閾値1（通常の閾値）以下の距離、低めOKとは、閾値1と閾値2の間に該当する距離を示す。

つまり、通常OKとは、通常の閾値での生体認証結果が成功したことを示し、低めOKとは、通常よりも低めの閾値（認証が通常よりも緩やか）での認証結果が成功したことを示す。

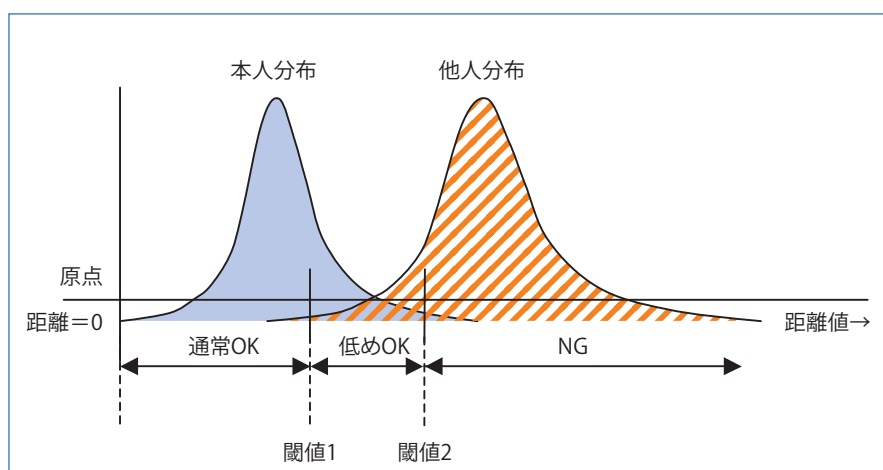


図1 認証結果分布図と閾値

このようにすれば、たとえば片方の生体認証システムに対して未対応であっても、もう片方の生体認証が通常通り利用できれば問題はなくなる。また、通常運用が閾値ギリギリで認証が成功したりしなかったりする不安定な利用者に対しては、万が一（通常の）認証に成功しなくても、両方の認証結果がある程度以上（低めの閾値以上）ならば認証成功になるので、総合的に本人が認証失敗する確率は大幅に減少する。（FRRを低くできる）。

最後に、2010年9月号掲載記事にも記したが、このマルチモーダル生体認証の組み合わせとしては、身体的特徴を利

用した生体認証と行動的特徴を利用した生体認証を組み合わせるのが良いと考える。

その理由は、どちらか一方だけだと生体情報取得時の環境や利用者の状態により、全ての生体情報の取得に同様の問題が発生する可能性があるからだ。また、行動的特徴を利用する生体認証を組み合わせることで、所在確認と意思確認の両方ができるという利点もある。

セキュリティの面でも、静的な身体的特徴と動的な行動的特徴の両方のデータを利用することで、偽装者の用意すべき偽情報が複雑になり、より偽装し難くなることも期待できる



IUK、世界トップシェア監視カメラソリューションセミナーを開催

ユースウェアのIUKは、日本IBMの運営協力を得て「世界トップシェア監視カメラソリューションセミナー」を開催した。本セミナーは、2010年12月に日本IBM、IUK、MOBOTIX JAPANの3社が発表した協業を、複数のVMSベンダに拡大して展開する内容である。

本セミナーには、MOBOTIX JAPANの運営および日本市場でのMOBOTIX製品を輸入販売するKJフェロー、デンマークのマイルストーン・システムズ社製X-Protectを販売するケーティーワークショップ、カナダのジェネテック社製OMNICASTを取り扱うジャバテル、日本のVMSの草分けとなるArgosViewを開発販売するヴィ・インターネットオペレーションズなどのソフトウェア・ベンダが出

展した。また、ソニービジネスソリューションズ、パナソニック電気インフォメーションシステム、クラウド・スコープ・テクノロジーズ、ムサシパーティション工業などもそれぞれの製品やソリューションを出展した。

運営を担当した日本IBMでは、IBMグループが掲げている都市のスマート化（スマートシティ）への取り組みの一環として、監視カメラソリューションを提案している。そしてその具体的な活動として、監視ソリューションの連繫・連合を提案し実践している。



日本国内においては、パナソニックやソニー、ケーティーワークショップやジャバテルそしてMOBOTIX JAPANなどの監視ソリューションを牽引する企業、本セミナー主催会社であるIUKが担当するシステム構築およびその協力会社、システム統合先進ソリューション提供企業、ジェネテック社やマイルストーン・システムズ社やMOBOTIX社といった世界規模での協業実績のある企業、そしてシステム製品ベンダであり技術先進企業である日本IBMが協力し合って、スマートシティの実現を目指している。

本セミナーで掲げている監視ソリューションは、第一段階として小規模のシステム統合から始めて2013年までに潮流を確立する。第二段階として徐々に中規模から大規模向けソリューションの実績を積み上げていくこと。そして、その先でクラウドサービスの提供を想定している。

上記の監視ソリューションを確実に実現していく上で、システム製品ベンダとシステム構築および運営を高度の水準で提供することが不可欠となる。そこで、システム製品を日本IBM、システム構築および24時間365日の運営と保守をIUKが担当するという図式を描いて発表したのが、今回開催した「世界トップシェア監視カメラソリューションセミナー」の最大の

理由と言える。

このイベントでは、参加企業に対して今回の提携・連合に拘束することなく、様々な連合体の構成企業に名を連ねることを容認している。それは、現段階は監視ソリューションの黎明期であり、特定企業グループに限定した事業展開よりも多種多様にわたる組み合わせや連携により裾野開拓を優先するという趣旨に基づいている。

これこそがまさにスマートであり、スマートシティ実現の第一歩に相応しいと言える。



ボッシュ、新製品を続々と発表

独 ボッシュ・セキュリティ・システムズは、日本市場に向けて積極果敢に新製品を発表し始めた。その背景には、2009年9月から開始したホーチキとの事業提携が確固たる事業計画とパートナー確保へと進展し始めていることがある。また、日本のセキュリティ市場がIP主導型に大きく舵取りの方向に向いていること、そしてIT分野からの大手企業の新規参加が顕著になってきたことも拍車をかける一因と言える。

今回発表した製品として、まずフルラインのHDカメラがある。これまでエントリーレベルが先行していた製品群も、今回ハイパフォーマンスとなる上位機種まで一気に拡大し、フルラインの製品群を完成させた。特にHD画質シリーズとしてボックス型カメラNBC-265 HD720pとドーム型カメラNDC-265HD720p、高感度デイナイトIPカメラでボックス型カメラDinionHD720pとドーム型カメラFlexDome HD720p、屋内用ドーム型カメラAutoDome junior HD 1080p、屋外型

ドームカメラAutoDome800 HD 1080pと取りそろえた。しかも全製品がONVIF対応となっており、最新ソリューションへの対応も整えている。

次に、録画装置ラインナップとして、iSCSI仕様によるDLA1200とDLA1400のシリーズそしてDSAシリーズを発表して、4TBから96TBまでのストレージに対応できる。特にDLA1400シリーズは、4TBと8TBのストレージを用意して、最小限の投資コストで録画対応HDシステム構築を可能にしている。

また、HD対応映像管理システムとして、BVC (Bosch Video Client) とBVMS (Bosch Video Management System) を発表した。BVCはカメラに付属する無償の映像管理ソフトウェアで、ライセンス追加で64CHまで拡張できる。HDカメラ720pおよび1080pに対応しており、標準画質との混在も可能となっている。また、映像事後検索「フォーレンジックサーチ」を無償サポートしている。これにより、小規模システムを無償ソフトウェアで構築することができるとしている。

一方、BVMS2.3映像統合管理ソフトウェアは、大規模システムに対応可能なサーバ・クライアント・ソフトウェアで、500台までの映像を統合管理することができる。

そして、映像セキュリティ用フルHD LCDモニターも発表した。この製品は1920×1080のフルHD解像度、コントラストが26インチで4000：1、42インチで3500:1となっている。また、多種多様



■会場となったドイツ大使館

な入力方式にも対応、トリガ入力や自動切り替えによる入力ソース切り替えが可能だ。そして178度視野角でどこからでも画面が見やすいモニターである。

今回、新製品とは別に協力パートナーシップの発表があった。それによると、ボッシュ・セキュリティ・システムズとホーチキの陣営とメンバーシップを結ぶことができる。ボッシュ製品に関する一定の知識と理解を有し顧客に提案を行う「ゴールド」、設置導入および技術サポートにも対応可能な「プレステージ」、ボッシュ製品のみならずIP監視ソリューション全般に関する知識と理解を有し、システム設定までの一貫した完全な設置サービスが提供できる「ファシリティサービスプロバイダーパートナー」と4種類のパートナーシップを制定している。

2011年はボッシュ社創業者のロバート・ボッシュ氏生誕150年、ロバート・ボッシュ社設立125年、ボッシュ社日本進出100周年と記念年であることから、今年は飛躍を目指した積極攻勢を展開する構えだ。



国内

3月

リテールテックJAPAN

会期：2011年3月8日～11日
会場：東京ビッグサイト東1・2ホール
主催：日本経済新聞社
URL：www.shopbiz.jp/rt

IC CARD WORLD 2011(第13回)

会期：2011年3月8日～11日
会場：東京ビッグサイト 東2ホール
主催：日本経済新聞社
URL：www.shopbiz.jp/ic

★ SECURITY SHOW 2011

会期：2011年3月8日～11日
会場：東京ビッグサイト 東2・3ホール
主催：日本経済新聞社
URL：www.shopbiz.jp/ss

第11回JAPANドラッグストアショー

会期：2011年3月11日～13日
会場：幕張メッセ
主催：日本チェーンドラッグストア協会
URL：www.drugstoreshow2011.jp

5月

第13回 データストレージEXPO

会期：2011年5月11日～13日
会場：東京ビッグサイト
主催：リード エグジビション ジャパン
URL：www.dse-expo.jp

第8回 情報セキュリティEXPO春

会期：2011年5月11日～13日
会場：東京ビッグサイト
主催：リード エグジビション ジャパン
URL：www.ist-expo.jp

第6回 RFIDソリューションEXPO

会期：2011年5月11日～13日
会場：東京ビッグサイト
主催：リード エグジビション ジャパン
URL：www.ridex.jp

第2回 クラウドコンピューティング EXPO 春

会期：2011年5月11日～13日
会場：東京ビッグサイト
主催：リード エグジビション ジャパン
URL：www.cloud-japan.jp

オフィスセキュリティEXPO (OSEC)

会期：2011年5月11日～13日
会場：東京ビッグサイト

主催：リード エグジビション ジャパン
URL：www.osec.jp/ja

ワイヤレスジャパン2011

会期：2011年5月25日～27日
会場：東京ビッグサイト
主催：リックテレコム
URL：www8.ric.co.jp/expo/wj

6月

画像センシング展 2011

会期：2011年6月8日～10日
会場：パシフィコ横浜
主催：アドコム・メディア
URL：www.adcom-media.co.jp/iss

第5回「地域防災防犯展」大阪

会期：2011年6月9日～10日
会場：インテックス大阪
主催：大阪国際見本市委員会
URL：www.exhibitiontech.com/bosai

7月

ワイヤレス・テクノロジー・パーク 2011

会期：2011年7月5日～6日
会場：パシフィコ横浜
主催：日本イー・ジェイ・ケイ
URL：www.wt-park.com

イベント

5月

12 13 日

9:00～17:00

プライベート
イベント名▲ MOBOTIX JAPAN
パートナー・カンファレンス

主 催

KJフェロー

場 所

横浜ベイシェラトンホテル

対 象 者

パートナーシップ企業および同契約締結希望企業

費 用

事前登録制・無料

定 員

300名

U R L

http://www.mobotix-japan.net/

問い合わせ先

045-227-6285

18 19 日

9:00～17:00

プライベート
イベント名▲ Axis ネットワークビデオ
ロードショー 2011

主 催

アクシスコミュニケーションズ

場 所

大阪OBPクリスタルタワー

対 象 者

監視システム販売会社、エンドユーザー

費 用

事前登録制・無料

定 員

-

U R L

http://www.axiscom.co.jp/

問い合わせ先

03-5312-5230

25 26 日

9:00～17:00

プライベート
イベント名▲ Axis ネットワークビデオ
ロードショー 2011

主 催

ケーティーワークショップ

場 所

ウイंकあいち

対 象 者

監視システム販売会社、エンドユーザー

費 用

事前登録制・無料

定 員

-

U R L

http://www.axiscom.co.jp/

問い合わせ先

03-5312-5230

海外

3月

★ Global Security Asia 2011

会期：2011年3月15日～17日
 会場：Sands Expo and Convention Center,
 Singapore
 E-mail：haiyen@globalsecasia.com
 URL：www.globalsecasia.com

★ Sectech Norway 2011

会期：2011年3月29日～30日
 会場：Radisson SAS Scandinavia Hotel, Oslo,
 Norway
 E-mail：marika.thelenius@armedia.se
 URL：www.sectech.nu

4月

★ Protect 2011

会期：2011年4月5日～6日
 会場：New World Hotel, Makati City, The
 Philippines
 E-mail：leverage@leverageinternational.com
 URL：www.leverageinternational.com

★ ISC West 2011

会期：2011年4月6日～8日
 会場：Sands Expo & Convention Center, Las
 Vegas, NV, USA
 E-mail：inquiry@isc.reedexpo.com
 URL：www.iscwest.com

★ Expo Seguridad

会期：2011年4月12日～14日
 会場：Banamex Center, Mexico City, Mexico
 E-mail：jurgen.oliver@giprex.com
 URL：www.exposeguridadmexico.com

★ Secutech 2011

会期：2011年4月20日～22日
 会場：Taipei World Trade Center Nanggang
 Exhibition Hall, Taipei, Taiwan
 E-mail：veronica.chen@newera.messefrankfurt.
 com
 URL：www.secutech.com

★ MIPS 2011

会期：2011年4月26日～29日
 会場：Zao Expocentre, Moscow, Russia
 E-mail：ilya.sobolev@ite-exhibitions.com
 URL：www.mips-expo.com

5月

★ IFSEC 2011

会期：2011年5月16日～19日
 会場：National Exhibition Centre, Birmingham,
 U.K.
 E-mail：kristan.johnstone@ubm.com
 URL：www.ifsec.co.uk

★ Fire & Security Pakistan 2011

会期：2011年5月17日～19日
 会場：Karachi Expo Centre, Karachi, Pakistan
 E-mail：info@firesecurity.com.pk
 URL：www.safesecurepakistan.com

★ Exposec

会期：2011年5月24日～26日
 会場：Centro de Exposições Imigrantes, Sao
 Paulo, Brazil
 E-mail：pacin@pacin.com.br
 URL：www.exposec.tmp.br

6月

★ IFSEC SOUTH INDIA

会期：2011年6月1日～3日
 会場：International Exhibition Centre, Bangalore,
 Karnataka, India
 E-mail：alex.nicholl@ubm.com
 URL：www.ifsecsouthindia.com

★ Secutech Thailand

会期：2011年6月30日～7月2日
 会場：Bangkok International Trade and
 Exhibition Centre (BITEC), Bangkok,
 Thailand
 E-mail：morris.ho@newera.messefrankfurt.com
 URL：www.secutechthailand.com

6月 15-16 日 9:00～17:00

28-29 日 9:00～17:00

7月 13-14 日 9:00～17:00

6月 15-16 日 9:00～17:00	28-29 日 9:00～17:00	7月 13-14 日 9:00～17:00
▲ Axis ネットワークビデオ ロードショー 2011	▲ Axis ネットワークビデオ ロードショー 2011	▲ Axis ネットワークビデオ ロードショー 2011
アクシスコミュニケーションズ	アクシスコミュニケーションズ	アクシスコミュニケーションズ
ベルサール八重洲	福岡国際会議場	TKP仙台カンファレンスセンター
監視システム販売会社、エンドユーザー	監視システム販売会社、エンドユーザー	監視システム販売会社、エンドユーザー
事前登録制・無料	事前登録制・無料	事前登録制・無料
-	-	-
http://www.axiscom.co.jp/	http://www.axiscom.co.jp/	http://www.axiscom.co.jp/
03-5312-5230	03-5312-5230	03-5491-5720

Secutech 2011

会期：2011年4月20日から22日まで
 主催：メッセフランクフルト・ニューエラ

IP技術の高まりは3つの分野が牽引しています。HD/メガピクセル、ストレージ、そしてソフトウェアです。Secutech2011では、セキュリティ産業界の仕入業者がIP監視関連ソリューションを見つけることができます。

Secutechは、アジアを代表する電子セキュリティの展示会&セミナーです。

これまでの14年間の開催実績により、25550名以上の方々が最新のソリューションの発見に期待して来場します。

展示会では、7つの特設ゾーンに3000以上のソリューションが用意されます。

7つの特設ゾーンは、映像ソフト上エア、IP機器、映像用ストレージと記録、入退管理、生体認証、ホームオートメーション、そして国土監視です。セキュリティ産業界の専門家は、世界を代表する企業のソニー、CNB、ダイナカラー、HIKVISION、Infinoa、VIVOTEKなどの最新製品を目の当たりにすることができます。

総合ソリューション

入退管理と生体認証ゾーンでは、116ブースの展示があります。各種カード読取機、生体認証機器、インタフォン、電子錠などです。IP監視は、さらに拡大した接続やネットワークで連繫した入退管理を映像監視や中央管理ソフトウェアなどにより統合化することができます。このゾーンにはHIDやKeiko、RosslareやKabaそしてAssaAbloyなどの有名企業が

出展します。

建築関連の自動化が具体的に変わったことで、情報化ビルや情報装備した住居などが増加しています。

Secutech2011は、中国や韓国そして日本の情報化建築関連者の主要企業を歓迎するホームオートメーションゾーンを充実させています。

Events

ComposecはSecutechの中で最新のイベントで、セキュリティ製品に採用されている基幹機器を展示します。出展社としては、インテル社、インターシル/テックウェル社、テキサス・インスツルメンツ社、ストレッチ社、ウェスタンデジタル社、そしてオムニビジョン社などが、セキュリティ機器開発に役に立つ半導体の活用法について講演します。Composecのセミナーには4つのトラックがあります。HD監視、進化する送信と接続、次世代の認証と管理、そしてグリーンセキュリティです。

GDSFアジアはSecutechで10年間開催されているセミナーです。本イベントにはこの分野の牽引者が集い、技術開発や具体的なアプリケーションについて発表します。今年はHD/メガピクセル監視、



Secutechは、主要のソリューションや製品そして基幹機器に触れることができるアジアで最も代表的なセキュリティ展示会です。

ソフトウェアと統合、ストレージと管理をカバーします。アクシス社やパナソニック社、オブジェクトビデオ社やマイルストーン社そしてジェネテック社などセキュリティ産業界の中核企業の方々に講演していただきます。

Secutechではセキュリティ専門家の方々に、アジアIP監視サミットや代表的な生体認証機器を地位列するバイオアジアギャラリなど、展示多種多様のプログラム、そして最優秀監視カメラコンテストも用意しています。最優秀カメラコンテストは、HD/メガピクセルカメラに対する仕入業者による評価に基づく公正な判断に基づいています。

ams

詳細な情報は下記URLでご覧ください
www.secutech.com

Secutech 2010 gives you **KEYS** of Security

Networking, integrating, servicing, new designs, new applications are always on top of the agenda today in the security industry. To pull together all these demands, needs, requests, myriads of solutions are offered on the market. Secutech 2011 is designed as the perfect business matching linking suppliers with buyers. Organized annually, this event definitely highlights the importance of a trading platform. Do not miss Secutech 2011 to experience its efficiencies, conveniences, and as a market attention grabber!

The HD/ Megapixel Collection

It is most evident that the acceptance of IP is repainting the security picture. Prominently, product innovation in HD & Megapixel surveillance is inevitable eyed in the market. Our expertise ranges from supporting technology to onsite actual offerings.

Technology

- Wide dynamics
- IR technology
- HD SDI
- H.264 Video Compression



Products

- HD and Megapixel Camera
- Full HD display devices
- Transmission devices
- Other camera devices

HD/ Megapixel Highlights at Secutech

- HD/Digital Surveillance Pavilion
- IP Surveillance Pavilion
- HD/ Megapixel Surveillance Forum

Storage Performance

Management is being magnified as an essential key in security. Everyday companies are struggling over how to maximize productivity and stabilize connectivity.

Technology

- Scalable updating
- Virtual storage
- Automated mirroring
- Clustered data storage



Products

- H.264 DVR/ Hybrid DVR
- NVR with embedded VMS
- Hard disk drives

Storage Highlights at Secutech

- Video Storage & Recording Village
- Storage Solution Center
- Storage Management Forum

Software Design

One of the most important breakthroughs in security is its complexity of functions and development. Explore the compatibility options between various devices such as IP cameras, encoders, DVRs and other video devices.

Technology

- Monitoring
- Recording
- Integration
- Scalability



Products

- Video Content Analysis
- Video Management Software
- PSIM

Software Highlights at Secutech

- Video Software zone
- Video Software & Integration Forum
- Video Software Gallery

Access Control and Intrusion Hinges

Access control/ RFID/ Biometrics all delved into home automation have been designed for years to provide a safe and convenient living condition within this industry. New topic such as integration or going "green" is even more elaborated. The show presents a series of related equipments and topics satisfying your needs.

Technology

- Biometrics
- Identification solutions
- Web-based access control
- Home Automation



Products

- Fingerprint lock/controller/reader
- RFID card/tag/key...
- Time attendance
- Sensor
- locks

Home Automation Highlights at Secutech

- BioAsia Gallery
- Intelligent buildings and Smart Homes Forum
- Home Automation Solution Center

Sponsors:



Trade Fair Certification: U.S. Commercial Service



April 20-22, 2011

Nangang Exhibition Hall, Taipei World Trade Center
Organizer: Messe Frankfurt New Era Business Media Ltd.
Lily Liu
T: + 886 2 2659 9080 ext. 722
E: lily.liu@newera.messefrankfurt.com

35,873 sq.m
500 exhibitors

CompoSec 2011

会期 2011年4月20日～22日

会場 台湾 台北市 南港世界貿易センター

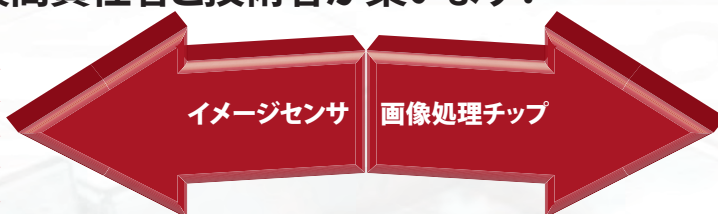
IP/HDカメラ設計技術者と技術スタッフを 対象とした展示会です。

世界の名だたる企業が一堂に会します!

CompoSec 2011はIP/HDカメラの基幹構成機器に焦点を絞った展示会です。
イメージセンサと画像処理チップのトップ企業が、
世界のセキュリティ機器メーカーの前で新製品の設計ソリューションを紹介します。

技術最高責任者と技術者が集います!

Aptina
Clairpixel
Sony
OmniVision
PixelPlus



Aspeed	Avisonic
Gennum	Grain Media / Faraday
HiSilicon	ICNexus
Intersil / Techwell	Kiwi Semiconductor
Macro Image	NextChip
RayHua	RICHNEX
SONY	Stretch
Texas Instruments	TSSI
UFINE	Xilinx

出展企業 (2011年2月24日現在)

Booth#	Company Name	Booth#	Company Name
M410-M413	APACER TECHNOLOGY INC.	M205	KIWI SEMICONDUCTOR LTD.
M208	ASPEED TECHNOLOGY INC.	M400-M403	LG ELECTRONICS TAIWAN TAIPEI CO., LTD
M110,M112	AVC INDUSTRIAL CORP.	M315,M317	MACRO IMAGE TECHNOLOGY INC.
M311,M313	AVISONIC TECHNOLOGY CORPORATION	M108	OMNIVISION TECHNOLOGIES ,INC.
M111,M113	CLAIRPIXEL CO.,LTD	M215, M217	PIXELPLUS CO., LTD.
M408,M409	CORESOLID STORAGE CORPORATION	M206	RAYHUA TECHNOLOGY INC.
M204	GENNUM CORPORATION	M312	RICHNEX TECHNOLOGY CO., LTD.
M212,M213	GIGAWAY TECHNOLOGY CORP.	M211	SHENZHEN BENCENT ELECTRONICS CO., LTD.
M303,M305,M307	GRAIN MEDIA, INC.	M214,M216	STRETCH INC.
showcase	HITACHI GLOBAL STORAGE TECHNOLOGIES ASIA	M210	TAIWAN SURVEILLANCE SEMICONDUCTOR, INC.
M418-M426	HUPER LABORATORIES CO., LTD.	M318-M323	TEXAS INSTRUMENT
M308,M309	HYVIEW TECHNOLOGY CO., LTD.	M414-M417	TRANSCEND INFORMATION, INC.
M300,M301	INNODISK CORPORATION	M314,M316	TRANWO TECHNOLOGY CORP.
M240-M248	INTEL MICROELECTRONICS ASIA LTD,	M404-M407	WESTERN DIGITAL
M218-M226	INTERSIL/TECHWELL	M240-M248	XILINX ASIA PACIFIC PTE. LTD.

ダイヤモンド・スポンサー:   

プラチナ・スポンサー:       

ゴールド・スポンサー:     

特別賛助:   



COMPOSEC CONFERENCE:

Daily Programs For Your Selection (programs are subject to change)

Date	Time	Session	Company
4月	Opening Speech		
20日	10:50~11:30	OP-1	Intel
	11:40~12:20	OP-2	HuperLab
4月	Seminar A(SA): Designing Solutions for HD Surveillance Devices (day 1)		
20日	13:10~13:50	K-A	Texas Instruments
	14:00~14:40	SA-1	Sony
	14:50~15:30	SA-2	Hisilicon
	15:40~16:20	SA-3	GrainMedia
	16:30~17:10	SA-4	APTINA-reserved
4月	Seminar A(SA): Designing Solutions for HD Surveillance Devices (day 2) + Seminar B(SB): Interface Solutions and Applications on Ethernet, SDI, USB, and SATA		
21日	10:00~10:40	SA-5	Aspeed
	10:50~11:30	SA-6	Pixel Plus
	11:40~12:20	SA-7	Stretch
	12:20~13:10	Lunch Break	
	13:10~13:50	K-B	Xilinx
	14:00~14:40	SB-1	Gennum
	14:50~15:30	SB-2	Microsemi-reserved
	15:40~16:20	SB-3	Micrel-reserved
	16:30~17:10	SB-4	**inviting leading brand**
	4月	Seminar C(SC): Design for High-speed and Sustainable Green Security Solution	
21日	10:00~10:40	K-C	ARM (inviting)
	10:50~11:30	SC-1	Western Digital
	11:40~12:20	SC-2	InnoDisk



Date: 20th to 22nd April, 2011

Venue: Nanghang Taipei World Trade Center, Taipei, Taiwan

Organizer: Messe Frankfurt New Era Business Media Ltd.

Concurrent Shows: **secutech** **Fire & Safety** **Info Security**

Website: www.composec.com

Contact: Alison Lin +886 2 2659 9080 ext 352; email: alison.lin@newera.messefrankfurt.com

**今すぐ
事前登録を!**

長蛇の列となる会場登録を避けてウェブ登録を
<http://www.composec.com/11/en/register.aspx>

ソニー、HDカメラのラインナップを充実化

ソニーは720pHD映像出力対応でコストパフォーマンスに優れた、スリムデザインのドーム型ネットワークカメラ「SNC-DH110/B」「SNC-DH110/W」(屋内ドーム型)、「SNC-DH110T/B」「SNC-DH110T/W」(屋内ドーム型/ドームカバー付)を発表した。これにより、同社はデザイン性と高画質を追求したコンパクトサイズのネットワークカメラのラインアップの充実化が整った。

「SNC-DH110」「SNC-DH110T」の主な特長は下記の通りである。

- 軽量で薄型そしてスリムデザインのドーム型ネットワークカメラ
- 720p HD映像出力に対応
- ソリッドPTZ機能を搭載
- 異なる画角を持つ二つの映像を配信可能
- 簡易デイ/ナイト機能搭載
- その他の主な特長
 - ・ PoE (IEEE802.3af準拠) に対応
 - ・ カメラ妨害検知機能を搭載
 - ・ DEPAに対応
 - ・ 動体検知機能を搭載
 - ・ “ONVIF”対応

今回の新製品により、ソニーのHD監視カメラは、1080pと720pのいずれにおいても高機能タイプとエントリータイプの豊富な製品群を揃えることができた。この結果、2011年7月24日から地上デジタル放送となる国内ユーザー側の環境の変化をいち早く捉えた同社のHD路線を本格的に展開する基盤が整ったこと

タイプ別

	PTZ型	屋外 PTZ型	Box型	屋外Box型	ドーム型	屋外ドーム型	Box型	ドーム型	ドーム型 (カバー付)
フルHD 1080p	高機能タイプ						コンパクトタイプ		
			SNC-CH240	SNC-CH280	SNC-DH240	SNC-DH280	SNC-CH210	SNC-DH210	SNC-DH210T
720HD	SNC-RH124 SNC-RH164		SNC-CH140	SNC-CH180	SNC-DH140	SNC-DH180	SNC-CH110	SNC-DH110	SNC-DH110T
フルHD 1080p	エントリータイプ								
			SNC-CH220	SNC-CH260	SNC-DH220	SNC-DH260			
720HD			SNC-CH120	SNC-CH160	SNC-DH120	SNC-DH160			

解像度別

	PTZ型	屋外 PTZ型	Box型	屋外Box型	ドーム型	屋外ドーム型	Box型	ドーム型	ドーム型 (カバー付)
フルHD 1080p	高機能タイプ						コンパクトタイプ		
			SNC-CH240	SNC-CH280	SNC-DH240	SNC-DH280	SNC-CH210	SNC-DH210	SNC-DH210T
			SNC-CH220	SNC-CH260	SNC-DH220	SNC-DH260			
720HD	SNC-RH124 SNC-RH164		SNC-CH140	SNC-CH180	SNC-DH140	SNC-DH180			
			SNC-CH120	SNC-CH160	SNC-DH120	SNC-DH160			

になる。24分割表示できる1台に、最大300台のカメラを切り替え表示すること

ができ、監視モニター表示面積での省スペース化を図ることができる。



secutech

THAILAND

セキュリティ/消防/安全管理の国際展示会

2010年11月30日までのご予約で早期
割引の優待が受けられます！

出展社募集中！ タイで初開催のセキュリティ/ 消防/安全管理の国際展示会

2011年6月30日～7月2日

バンコク国際見本市センタ

(Bangkok International Trade and Exhibition Centre(BITEC))

www.secutechthailand.com

特徴：

- ✓ タイ政府はじめ、国内外の有数の企業団体が後援・協賛。
- ✓ ASEAN 地域最大のセキュリティ市場であるタイでの開催。
- ✓ タイおよび周辺国から訪れる多くの産業従事者との接点の場です。
- ✓ 多彩な同時開催イベント：グローバルデジタル監視フォーラム・タイ (GDSF Thailand)、
消防/安全管理セミナー、製品プレゼンテーション

公認メディア：

お問い合わせ先

メサゴ・メッセフランクフルト株式会社

Tel: 03-3556-3912

Fax: 03-3262-8442

info@japan.messefrankfurt.com


Messe Frankfurt New Era Business Media Ltd

Tel: (852) 2802 7728

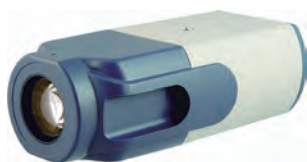
Fax: (852) 2598 8771

stth@newera.messefrankfurt.com

 **THAILAND**
convention & exhibition bureau

 **messe frankfurt**

国内



3MピクセルIPカメラ NH073

- ・1080p/30fpsとD1/30fpsのデュアルストリーム
- ・A F機能付き光学10/18倍ズームレンズ
- ・デイ/ナイト機能
- ・オートアイリス
- ・プライバシーマスク
- ・H.264とMJPEGによるコーデック
- ・ソニー製CMOSセンサー搭載
- ・カラー色調と白黒階調を再現するIR除去フィルタ
- ・BNCによるアナログ出力
- ・マイクロSDカードスロット内蔵

ダイナカラージャパン

URL : www.dynacolor.co.jp

☎ : 03-5524-6655



LTR-100HS

- ・映像アーカイブワークフローを再定義
- ・LTOメディアへのファイル形式でのリアルタイム記録
- ・LTOメディアからのスピーディな再生
- ・LTOメディアによるファイル交換環境の提供
- ・ファイルベースワークフローへのシームレスな連携
- ・長時間アーカイブに最適なオープンテクノロジー
- ・コンパクトな筐体デザイン
- ・システム構築のための拡張性

朋栄

URL : www.for-a.co.jp

☎ : 03-3446-3121



GV-IP CAM H.264 1.3M PT GV-PT110D

- ・1.3メガピクセルプログレッシブスキャンCMOS搭載
- ・パン/チルト機能搭載
- ・赤外線IR LED搭載
- ・H.264/MPEG4/MJPEG映像圧縮により、高画質、長期間録画 (GV-DVR/NVRシリーズ統合時)
- ・1280x1024 (SXGA) 対応
- ・PoE給電対応
- ・GV-DVR/NVR/CMSシリーズとの映像統合

GeoVision

URL : www.geovision.co.jp

☎ : 03-5639-9355



フルハイ ビジョン ポータブルカムコーダ KF-500M

- ・本体質量が約90gと軽量コンパクト
- ・500万画素CMOSカメラ内蔵
- ・2.0型TFTモニターでライブ映像確認と再生が可能
- ・HDMI出力端子でフルハイビジョンTVへの接続も可能
- ・映像録画用32GB対応のSD/SDHCカードスロットを内蔵
- ・夜間の撮影も可能にするLED投光器を内蔵
- ・3つの電源供給の選択が可能
- ・アルカリ乾電池が使用可能

ケルク電子システム

URL : www.kelc-e.com

☎ : 075-593-2103



多焦点深度 レンズ インフィニティレンズ TM

- ・車番認識装置に最適
- ・大きな焦点深度 (MDF) を持つ
- ・全ての画像で多くの焦点合わせが可能
- ・画像全体に亘り焦点を合わせることが可能
- ・アナログ、IP、メガピクセルカメラに使用可能
- ・より鮮明で、より深く、より明るい画像で撮影可能
- ・昼も夜も同様に多焦点深度を維持

ストアネット株式会社

URL : www.storenet.co.jp

☎ : 045-476-2935



大規模統合管理 ソフトウェア Central Basic+

- ・NVRやICSProの最大管理台数は無制限
- ・最大256台までをモニタリング可能
- ・H.264カメラや5メガピクセルカメラに対応
- ・画像解析機能を標準搭載
- ・最大48台のカメラを同時モニタリング
- ・最大4台まで同時録画再生可能
- ・最大3つまで階層グループを設定できるマップ機能
- ・ジョイスティック対応
- ・双方向音声対応

システム・ケイ

URL : www.systemk.co.jp

☎ : 011-704-4321

海外



KxViewProシリーズ Ver2.0 新発売!

- ・ MJPEGに加えて、H.264録画に対応
- ・ フルHD録画、4メガピクセル録画対応
- ・ 最大30fps録画可能(H.264)
- ・ 9/16/32台のカメラ映像の同時録画
- ・ 多彩な4~24マルチ分割画面でのライブ表示
- ・ デュアルモニタ対応で最大48分割表示
- ・ 高性能ながら簡単操作
- ・ P T Zウインドウ、ジョイスティックで楽々操作
- ・ マップ表示およびカメラツリー表示機能

ネットカムシステムズ

URL : www.kxview.net

☎ : 03-5207-8591



メガピクセルカメラ DVRSNB-7000/ SNV-7080/ SND-7080/7080F

- ・ 最大解像度 3 Mバイト
- ・ フルHD 1080p解像度
- ・ H.264、MPEG-4、M-JPEGをマルチコーデック
- ・ 2MピクセルカメラでWDRをサポート
- ・ 使える圧縮

Samsung Techwin/韓国

E-mail: hyunjin.ahn@samsung.com



フルHDズームカメラ・ モジュール

- ・ 3倍AF内蔵型広角80度ズームレンズ
- ・ 38mm角とコンパクトなボード寸法
- ・ 1920 x 1080解像度での30/25fpsの5Mピクセル
- ・ デジタルHUBプロセッサ搭載
- ・ HD-SDI, DVI, USBインターフェース、TV端子内蔵
- ・ R除去フィルタのスイッチ付き

Foresight Systems Technology/台湾

E-mail: sales@foresight-systech.com



VS-4016U-RP Pro NVR

- ・ HD表示でPCレス・ネットワーク監視
- ・ 複数のVioStor NVRサーバからの128チャンネル画面表示
- ・ 8台のメガピクセルカメラから録画
- ・ 映像サーチによる各種機能として、インテリジェント映像解析、動体検知、持ち去り検知など
- ・ 38社のネットワークカメラ
- ・ ONVIF対応のカメラ1,000機種以上で映像伝送をサポート

QNAP Security/台湾

E-mail: nvr@qnap.com



ドームカメラ

- ・ SD480p/30fps、720p/30fps、1080p/15fpsで、H.264とM-JPEGを同時ストリーム
- ・ 3-13mmワイドレンジ/バリフォーカル/メガピクセル・レンズ
- ・ PSIA and ONVIF準拠
- ・ PoEによる3.8W以下の低電力
- ・ ワイドダイナミックレンジ
- ・ 3年間保証

IQinVision/米国

E-mail : sales@iqeye.com



3G/GPSとH.264対応の 携帯映像録画機 MVR-100-4

- ・ D1解像度
- ・ 直流8~32VとAVR (自動電圧調整装置)による幅広い電力範囲をサポート
- ・ CDMA、WCDMA、TD-SCDMA、3-Gによる送信
- ・ GPS情報とSDカードスロットを装備
- ・ 管理用CMSを提供
- ・ 以前の事件でSDカードに記録したファイルをIEブラウザ経由で入手

Provideo/台湾

E-mail : sales@provideo.com.tw

海外



圧縮3方式による ストレージ管理

- ・フル動体映像を消失した経験からのストレージ要件の削減
- ・NVR-AS300単独機器とWindows用NVRでの映像間引きに便利
- ・場面の全体の動きの中での映像伝送フレーム数に応じてフレームを制御
- ・最小のフレームレートによりネットワーク経由でストリーミング
- ・最大フレームレートで送信された映像を自動検出

IndigoVision/米国

E-mail : enquiries@indigovision.com

海外



HCC-960N-VR WDR / DNR 超高解像度 カラーカメラ

- ・逆光補正機能 (BLC, WDR, BMB™)
- ・高解像度650TV本
- ・3D-DNR (Digital Noise Reduction) 機能実現によりノイズ除去
- ・モーション監視、プライバシーゾーンマスキング機能
- ・PIP, QUADなど様々なアプリケーションを実現

Honeywell Security North Asia

URL : www.honeywell.co.kr/security/english



エコストリーム 複数条件用レシーバ EE4232MR

- ・どのような導入でも32エコストリーム無線送信まで追加可能
- ・単独および複数条件送信用のサポート付き
- ・2行文字表示により送信状況、過去の記録、信号の強さなどを表示
- ・任意のパネルに接続するための12個のCリレー
- ・出力はラッチとフォロア構成で、瞬間またはトグルモードは単独
- ・無線プログラミング手順は受信機に内蔵

Inovonics/米国

E-mail : sales@inovonics.com



P5 IP 音声デコーダ

- ・PoE給電をサポート
- ・統合した5Wのスピーカ・アンプ
- ・スピーカ取付用つば
- ・VSC音声原制御インタフェースを内蔵
- ・10/100MビットイーサネットとSIPペイジング・インタフェース
- ・低消費電力によるワイドレンジ入電力供給

Barix/スイス

E-mail : info@barix.com



ラック搭載型 音声プレーヤ・レコーダ

- ・USB接続ストレージで拡張可能
- ・HDD損傷やウイルス感染などのPC本体への影響なし
- ・ネットワーク接続による管理および動作
- ・手動または定時によるセキュリティや非常用通報の再生
- ・直接記録機能
- ・ネットワーク・タイムサーバに接続

Technomad/米国

E-mail : sales@technomad.com



インターネットIP、 GPRS/GSM警報パネル CTC-1241

- ・無線IPベースとウェブページにあるGSM/GPRSパネル用の2つの範囲での80区域
- ・警報通知：TCP/IPやIDでの接続かSMSテキスト文
- ・通知番号：2つのGSM/SMS用電話番号と2つのIPアドレス
- ・柔軟に簡単に導入できる光学的Wi-Fi技術

Climax Technology/台湾

E-mail : sales@climax.com.tw

国内



セキュリティシステム 「GG-2」

- ・大規模施設の高度な設備機器と連動するインターフェース搭載
- ・2009年度グッドデザイン賞受賞
- ・登録人数10万人、管理ゲート数12,144
- ・履歴保存2年
- ・ユニバーサルデザインを考慮しイルミネーションと音声ガイダンス機能を搭載
- ・制御装置内にバージョン情報や機器状態を監視できる自己診断機能搭載
- ・未使用時は省エネモードに自動切換え可能

クマヒラ

URL : www.kumahira.co.jp

☎ : 03-3270-4388

海外



非接触型 指ハイブリッドスキャナ HS100-10

- ・世界最高水準の高精度な指紋認証と顔認証技術を応用して「指静脈認証技術」を独自に開発、さらに指紋認証と組み合わせて高精度認証を実現
- ・乾燥している指や多汗な指でも確実な認証が可能
- ・指紋情報と指静脈情報を両方利用するため、なりすましが困難
- ・各社シングルサインオンソフトウェアなど様々なパッケージ製品等と連携可能

NEC

URL : www.nec.co.jp

☎ : 03-3798-6107



eDCM 330 PoE 2ドア制御機器

- ・データベースで20万人のカード保持者記録の検証をサポート
- ・標準インタフェース経由での読取データ通信
- ・保守点検時には自動リセット
- ・読取機とドアへの給電は10/100MbpsによるPoE接続
- ・サードパーティによる読み取りをサポート
- ・データ変更入力

CEM Systems (Tyco International)/英国

E-mail : cem.sales@tycoint.com



映像ドアフォン SHT-3006TM

- ・6インチカラーTFT画面
- ・簡単な設置と2線接続による使用
- ・映像モニタとインタフォンによる内線通信
- ・各ドアカメラ映像をリアルタイム表示
- ・スクリーン表示による明度と音量の調整

Seoul Commtech/韓国

E-mail : sales.ezon@samsung.com



近接スイッチによる キーパッド

- ・1,010人分
- ・1~99秒あるいはトグルによるプログラミングしたりレール出力
- ・2つの多色/多機能LED
- ・堅牢なアルミニウム構造
- ・屋外使用の耐候性
- ・近接カード読取機を内蔵

Superior Electronics/台湾

E-mail : info@superior-elec.com



ウェブベース 入退管理システム NetAXS

- ・ウェブ・ブラウザからの行動および管理情報管理
- ・専用PCもソフトウェアなしでインターネット経由接続
- ・オフィスや遠隔地から簡単にログイン
- ・簡単な防犯ドアや管理執行権そして時間や区域設定とイベント発生報告
- ・将来の拡張性に配慮

Honeywell Security/米国

E-mail : comments.security@honeywell.co

世界のバイヤーと日本のメーカーを結びます

セキュリティ総合情報専門誌

世界各地で配布しているA&S各誌を通して、世界のセキュリティ産業界の主要企業やキーマン、有力従事者に情報を提供しています。このことから、最も効率の良い産業界のメディアとの評価を獲得しています。現在、A&S International、A&S Asia、A&S Japan、A&S China Best Buys、A&S China、A&S Installer、A&S Taiwan、A&S Turkey、A&S Adria、A&S Italyの専門誌を刊行しています。



A&S International

- 1997年創刊
- 世界市場向けセキュリティ専門情報誌
- 月刊
- 発行部数 20,000部
- 年間購読料金 9,000円(税別)



A&S Asia

- 1998年創刊
- アジア地域向けセキュリティ専門情報誌
- 月刊
- 発行部数16,000部
- 年間購読料金 6,000円(税別)



A&S China

- 1994年創刊
- 中国向けセキュリティ専門情報誌
- 月刊
- 発行部数27,000部
- 年間購読料金 9,000円(税別)



A&S Installer

- 2001年創刊
- 中国設置施工業者向けセキュリティ専門誌
- 月刊
- 発行部数22,000部
- 年間購読料金 9,000円(税別)



A&S Taiwan

- 1994年創刊
- 台湾向けセキュリティ専門情報誌
- 隔月刊
- 発行部数17,000部
- 年間購読料金 6,000円(税別)



A&S Türkiye

- 2008年創刊
- トルコ向けセキュリティ専門情報誌
- 隔月刊
- 発行部数6,000部
- 発行元はMarmara Fair Organization
- 年間購読料金 6,000円(税別)



A&S Adria

- 2008年創刊
- ボスニア・ヘルツェゴビナ、クロアチア、コンボ、モンテネグロ、スロバキア、セルビア向けセキュリティ専門情報誌
- 月刊
- 発行部数2,500部
- 発行元はGlobal Security d.o.o
- 年間購読料金 9,000円(税別)



A&S Italy

- 2010年創刊
- イタリア向けセキュリティ専門情報誌
- 隔月刊
- 発行部数6,000部
- 発行元はEthos Media Group
- 年間購読料金 6,000円(税別)

お問い合わせ:

ASJ社 (Advanced Security Journal Corp.)

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-7-1 ウィン神田ビル10階

Tel : 03-6206-0448 Fax : 03-6206-0452 Email : info@asj-corp.jp

映像遅延の許容範囲はどのくらい？

アナログカメラ・システムでは見られなかった現象で、ネットワークカメラに必ず起きてしまうものの一つに映像遅延がある。地上デジタル放送やBSデジタル放送での体験からか、この存在そのものはユーザ側でも理解してもらえることがある。しかし、どの程度までの遅延が発生するものなのか、許容範囲はどこまでかといった情報があまり紹介されていない。状況次第ではユーザ側がシステム障害と勘違いしてしまう事例もあると聞いている。こういった実務に即した記事の掲載を望みたい。

(東京 設置施工業)

HD-CCTVとHD-SDIの紹介を希望

貴誌はIPネットワークカメラ・システムの導入を推進する立場を明確にしているが、日本市場ではなかなか容易に普及していないのが実情かと思う。そこには、既存設備を使いながらアナログカメラよりも高画質の映像を求めている顧客の要望がある。そしてそれに応える方式としてHD-CCTVとHD-SDIがあると聞いている。果たして、両方式がその期待に応えることができるのかどうか、仮に過渡期のシステムだとしても詳細を知りたい。分かりやすく紹介する記事の掲載を希望する。

(千葉システム構築者)

詳しい導入事例の紹介を望む

セキュリティはデリケートな分野であり、顧客も手の内を明かす訳がいかないという考えを持っているのからか、日本ではセキュリティの導入事例の紹介が少ない。またあったとしても、知りたい内容について割愛されていることが多い。以前はパナソニック社が海外導入事例を詳しく紹介した記事を読んだことがあるが、最近は見かけることが少ない。貴誌は姉妹誌である海外発行のa&s各誌から情報を得ることができると思うので、導入事例の記事をもっと掲載して、読者が参考にできるようにしていただきたい。それこそ有料でも入手したい情報は、まさに詳しい導入事例だ。

(愛知 製造業)

「読者の声」を募集しています。

本誌では、セキュリティに関する読者の皆様のご意見やご提案を募集しています。セキュリティ機器やシステムを供給している側、セキュリティシステムを既に導入あるいは導入を予定している側いずれからのご応募でも結構です。お寄せいただいた内容については、有識者による適切な回答を掲載以降に発行する本誌に掲載します。ただし、特定企業や団体または個人に対して誹謗中傷または批判する内容はご遠慮ください。

一例を挙げると、セキュリティシステムを導入したいがどのような手順で進めればよいのか、事前説明については複数の会社からの説明を受けたほうが良いのはわかるが、その内容が理解できないときはどうすればよいのかなど、セキュリティに関することであれば詳細は問いません。また、原則として匿名で掲載しますので、個人情報や漏洩する懸念はありません。

ただし、正確な回答をご案内するために、導入条件や環境についてはできるだけ具体的に記載してください。ご応募をお待ちしています。

A&S JAPAN 編集部

TEL 03-6206-0448

FAX 03-6206-0452

reader@asj-corp.jp

A&S JAPAN MAR/APR 2011 (No.21)

広告主	掲載頁
アバーメディア	43
エヴァーフォーカスジャパン	表1
NSS	17
ケービデバイス	3
ソニー	9
タムロン	41
店舗プランニング	1
日本経済新聞社	44
ネットカムシステムズ	表2
日立情報制御ソリューションズ	45
BRICKOM	23
DYNACOLOR	43
HONEYWELL	表4
MINTRON	表3

*広告索引は本誌の任意サービスです。誤字・脱字などに関する責任は負いかねます。

次号案内 2011年5/6月号 (5月9日発行予定)

特集

IT/IP産業従事者

市場動向

公共輸送

RF-ID、ICタグ/カード

電力線通信、同軸ケーブル

生体認証

動的署名と静的署名

※タイトルと内容は変更することがあります。

掲載情報募集中

■ 製品紹介

日本国内で提供しているセキュリティ製品の情報を募集中です。掲載希望の製品に関する下記データをお送り下さい。

- ・ 140字程度の製品紹介
(箇条書きおよび「である調」または体言止め)
- ・ 製品画像データ 1点 (1メガバイト程度)

■ 各種情報

セキュリティ産業関連情報を募集中です。掲載希望の内容に関する下記データをお送り下さい。

- ・ 150字程度の情報紹介文 (「である調」または体言止め)
- ・ 製品画像データ 1点 (1メガバイト程度)

■ 送付先

ASJ社編集部

info@asj-corp.jp
TEL : 03-6206-0448
FAX : 03-6206-0452

A&SJAPAN ©ASJ社 2011年3-4月号 No.21

The Professional Magazine Providing Total Security Solutions

市場動向 | 製品情報 | 技術情報 | ソリューション情報

最新の市場動向と新しい製品や技術の紹介、統合ノウハウ、国内外の事例を幅広く提供します。

発行人 小森 堅司
制作協力 Draw The Line Office103 サイドディッシュ
印刷 新日本印刷

■ 広告に関するお問い合わせ

電話 : 03-6206-0448 または
E-mail : komori@asj-corp.jp まで

■ 購読に関するお問い合わせ

電話 : 03-6206-0448 または
E-mail : reader@asj-corp.jp まで

■ 記事情報提供に関するお問い合わせは

E-mail : marie-k@asj-corp.jp まで

※DM代行サービスおよび電子メール配信サービス当社では、広告主の依頼によりダイレクトメールまたは電子メールで広告情報をお届けすることがあります。これらのサービスでは、読者の皆様の個人情報を広告主には一切公開していません。

a&s JAPANはMesse Frankfurt New Era Mediaが発行するa&s International、a&s Asiaをはじめとするa&s各誌の独占翻訳権を特約して発行しているセキュリティ国際情報誌です。

ASJ社

Advanced Security Journal Corporation
東京都千代田区神田須田町1-7-1ウィン神田ビル10階 〒101-0041
電話 : 03-6206-0448 FAX : 03-6206-0452

高感度で 高解像度を実現

1080p/720p 50/60fps HDカメラ



HD-IP カメラ

- HD 720pマルチプル・ストリーム
- コーディック：H.264 / MPEG-4 / M-JPEG
- CVBS



メガピクセル モジュール

- イメージセンサー：1.3~3M CMOS / CCDセンサー
- ARM / メモリー内蔵
- デジタルビデオ出力：YUV 4:2:2 16bit (SMPTE 274M/296M)
- CVBS 出力：560TVL or 700 TVL (NTSC/PAL)
- 機能調整可能：Peak / BLC / XDR / 3D DNR / A.E.S / DC-IRIS
- IRカット切り替え
- コミュニケーション：RS-232C / OSD
- 低消費電力化



3G-SDI カメラ

- 非圧縮ビデオ：720p/1080p
- 同軸ケーブルで伝送可能
- バイトレート：2.97Gb/s SMPTE 292M/424M
- ワンケーブル：
ビデオ/オーディオ / RS-232C 搭載
- CVBS

MINTRON ENTERPRISE CO., LTD.

No.123, Wu-Kung 1 Rd., Wu-Ku Industrial Park, Taipei (248), Taiwan

Tel : 886-2-22990277 E-mail: service@mintron.com.tw

Fax: 886-2-22989375 Web : www.mintron.com Skype: mintron3601



ISO-9001



ISO-14001



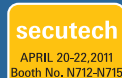
RoHS



QC080000



Booth NO. L518



APRIL 20-22, 2011
Booth No. N712-N715

Honeywell WDR / DNR 高解像度カラーカメラ



HCC-960N-VR

51万画素、650TV本の高感度ボックスカメラ

51万画素、650TV本高解像度、0.00001の最低照度に加え、True/Software Day & Night、WDR、BMB™、3D-DNR等の様々なデジタル機能を搭載したハネウエルのボックスカメラ、HCC-960Nシリーズ。

より鮮明で綺麗な画質を追求するハネウエルの思いが込められています。

- RS-485方式採用
- プライバシー保護機能(16ゾーン設定可能)
- Motion Trace機能
- 鮮明な画像をLCD画面に実現するための9段階 Gamma Correction機能

Honeywell

Honeywell Security North Asia

(〒105-0022)東京都港区海岸1-16-1ニューピア竹芝サウスタワー21F(受付20F) 電話: 03-6730-7195 FAX: 03-6730-7229
5F, Sangam IT Tower 1590, Sangam-Dong, Mapo-gu, Seoul 121-835, Korea
Tel: (82)2-799-6395, 6020 Fax: (82)2-799-6188 www.honeywell.co.kr/security/english